

インフラツーリズム魅力倍増プロジェクト 各モデル地区の進捗状況と今後の進め方について



- 1. 前回までの議論の概要**
- 2. 取組のタイプに応じたインフラツーリズム拡大方策**
- 3. 各モデル地区の進捗状況**
- 4. 令和2年度の成果と今後の実施方針**

1. 前回までの議論の概要

1. 前回までの議論の概要 — 懇談会の開催経緯 —

◆インフラツーリズム有識者懇談会

第1回 (H30.11.9)	<ul style="list-style-type: none">・インフラツーリズムのこれまでの取組と課題・インフラツーリズムの今後の方向性
第2回 (H30.12.25)	インフラツーリズムの拡大にむけて
第3回 (H31.2.26)	拡大にむけたまとめと来年度の取り組みについて
第4回 (R1.6~7) (持ち回り開催)	<ul style="list-style-type: none">・モデル地区(5地区)の選定・プロジェクトロゴマークの決定
第5回 (R2.1.28)	<ul style="list-style-type: none">・各モデル地区の進捗状況・今年度成果とりまとめの方向性
第6回 (R2.8.5)	<ul style="list-style-type: none">・各モデル地区の進捗状況 ※現地協議会、ファムツアーの実施結果を踏まえた事業実施方針、 ツアー提案と今後の検討項目の整理・追加モデル地区(2地区)の選定 ※白鳥大橋(北海道)、日下川新規放水路(高知県)を選定

1. 前回までの議論の概要 –モデル地区の概要–

①鳴子ダム【宮城県大崎市】

- ・日本人の技術者により造られた日本初のアーチダムで選奨土木遺産
- ・周辺には温泉、名勝、史跡等があり、農業遺産である大崎耕土も含めた流域連携モデル



②ハツ場ダム

- 【群馬県吾妻郡長野原町】
- ・建設中ダムでの多彩な見学ツアー（やんばツアーズ）を開催
- ・建設段階から管理段階への移行モデル



③天ヶ瀬ダム【京都府宇治市】

- ・宇治市街地に近接
- ・立地を活かし、DMOと連携したツアー造成、淀川水系支流の高山ダムとの組み合わせなど広域連携モデル



④来島海峡大橋 他

- 【愛媛県今治市】
- ・しまなみ海道上の世界初の三連吊り橋であり、塔頂体験ツアーを開催
- ・先行実施している明石海峡大橋のノウハウも取り入れ、長大橋のモデル



⑤鶴田ダム

- 【鹿児島県薩摩郡さつま町】
- ・九州最大の重力式コンクリートダムで水位低下時には明治期の発電所遺構が出現
- ・霧島連山や桜島等の広域周遊モデル



⑥白鳥大橋【北海道室蘭市】

- ・1998年に完成した東日本最大の吊り橋で、寒冷地における国管理の長大橋
- ・令和2年7月12日開業の民族共生象徴空間「ウポポイ」や登別温泉、クルーズが人気を集める室蘭港等との地域連携周遊モデル



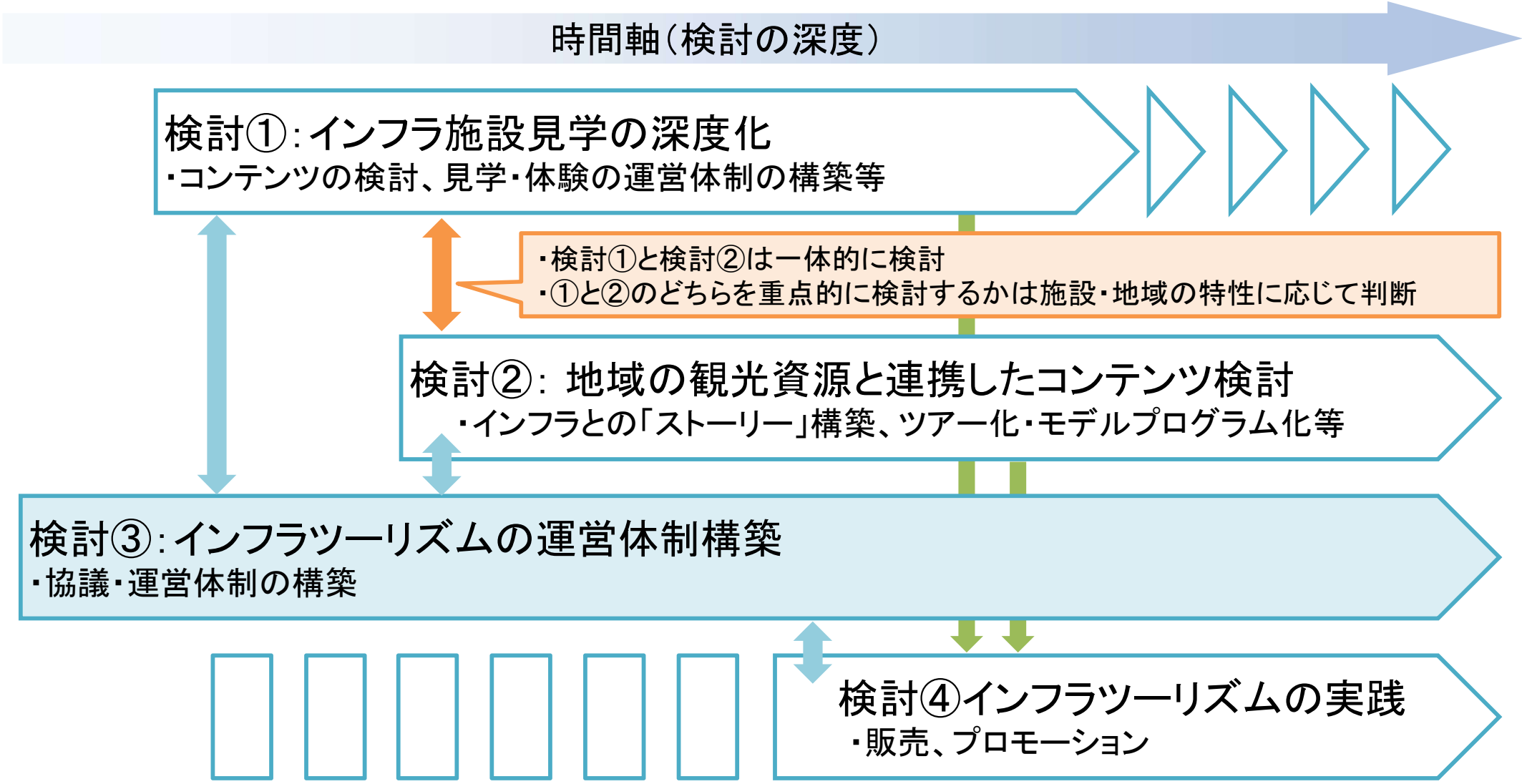
⑦日下川新規放水路

- 【高知県高岡郡日高村】
- ・日本最長級(5.3km)かつ高度な技術が必要とする水路トンネルを現在工事中
- ・仁淀ブルー等の観光資源との連携を進めるとともに、工事現場の見学を通して、放水路、調整池等のインフラ施設と水害の関わり、歴史を紹介・学習する工事段階から管理段階への移行モデル。



1. 前回までの議論の概要 –モデル地区での取組内容–

- 検討③(インフラツーリズムの運営体制構築)を軸に、検討①(インフラ施設見学の深度化)、検討②(地域の観光資源と連携したコンテンツ検討)及び検討④(インフラツーリズムの実践)を検討していく



1. 前回までの議論の概要 –インフラツューリズムの今後の留意点–

インフラツューリズムの今後の方針策定にあたっては、インフラの種類、立地、地域の戦略等により、目指す姿が異なることから、インフラツアーとして一括りにするのではなく、まずは目指すべき姿を明らかにし、タイプ分けを行ったうえで、実現性等について評価し、モデル地区の絞り込みを行っていく必要がある。

＜ステップ1. インフラツューリズムのタイプ分け＞

- ・ 既存のインフラツアーについて目指すべき方向性のタイプ分けを実施

＜ステップ2. モデル地区についてフィージビリティスタディー＞

- ・ 目指すべきインフラツアーの姿について、関係者にて議論
- ・ フィージビリティスタディーを行い、実現性について評価
- ・ 必要に応じてインフラツアーの姿を見直し、実現可能なプランに磨き上げる

＜ステップ3. モデル地区の絞り込み＞

- ・ フィージビリティスタディーをクリアしたものについて支援を実施。早期の自立を目指す

1. 前回までの議論の概要 –モデル地区の追加選定–

	施設	所在地	評価結果
1	国道37号 白鳥大橋	北海道 室蘭市	<ul style="list-style-type: none">• 1998年に完成した東日本最大の吊り橋であり、国が管理する橋梁見学の事例となる。• 周辺には令和2年7月19日開業の民族共生象徴空間「ウポポイ」や登別温泉などの観光地、夜景やクルーズが人気を集める室蘭港等があり、地域と連携した周遊コースとしての取り組みが期待できる。• 北海道のインフラ施設として、寒冷地における冬季の施設見学の検討や、首都圏・海外等遠隔地からの誘客を目指す事例となる。
2	日下川新 規放水路	高知県 高岡郡 日高村	<ul style="list-style-type: none">• 日本最長級かつ高度な技術を必要とする水路トンネルであり、現在工事が行われていることから、トンネルとして初の事例であるとともに、工事段階から管理段階への移行について、ハツ場ダムの知見を展開する機会となる。• 工事現場の見学を通して放水路、調整池、樋門(水門)等のインフラ施設と水害の関わりや歴史を紹介・学習できるほか、本施設によって洪水から守られる地域での食事や観光を通してインフラの重要性を伝えることができる。• 仁淀ブルー等地域の観光資源との連携が期待でき、大都市や有名観光地から遠い立地における、地域への誘客を図る取り組み事例となる。

1. 前回までの議論の概要

— 第6回懇談会でいただいた主なご意見等 —

◆意見を踏まえた進め方

各モデル地区の取組内容

No	ご意見	対応
1	継続的に取組みを進めるうえでは、事務局主体ではなく、地域主体で儲かる仕組みを作らないと続かない。そこまで踏み込んだプロデュースができる体制が必要である。	本省や有識者がサポートしながら、現地協議会を中心に地域が主体的に進める体制を構築していく。
2	各地域で同じように進めるのではなく、これまでの取組や現地側の体制を踏まえて進め方を判断する必要がある。	インフラの特性や地域の観光資源、各地域の進捗状況に合わせた進め方を検討する。
3	取組を主体的に進める組織が重要である。また、キーパーソンの存在は重要だが、人が変われば変わってしまうということのないようにする必要がある。	本事業を活用して、各地域において持続可能な運営体制、実施スキームを構築する。
4	インフラツーリズムの全国展開を念頭に置いた場合、何が手引に求められるかは今の段階で整理したほうが良い。インフラツーリズムだからこそのストーリーや体制という、他の観光とは違うとことを整理したほうが良い。	「インフラツーリズム拡大の手引き」を令和3年度に改定予定。令和3年度までの成果を踏まえて内容を整理予定。
5	インフラツーリズムについては、インバウンドへの対応を含め、この事業のフレームで支援する内容と、それぞれの地域で独自で行う取組の両方があって良い。	各地域において、本事業の範囲外においても活性化の取組を進めている。

インフラツーリズムの今後の留意点

No	ご意見	対応
6	無理に押し進めるのではなく、地域主体の取組を支援していく進め方とすべきである。	本省や有識者がサポートしながら、現地協議会を中心に地域が主体的に進める体制を構築していく。
7	各地域ともツアーを組んで収益化をするという方向で進んでいるが、インフラのタイプに応じて進め方を考える必要がある。	インフラのタイプに応じて、収益化以外の方向性も検討する。 ⇒本資料2. で説明
8	今動いている、収益化の方向性だけでなく、違う道も提示していく。方向転換をして出口戦略を考えることは良いのではないか。	

モデル地区の追加選定について

No	ご意見	対応
9	地域としてはこの2つでよいと思う。これまではダムが多かったが、それ以外のモデル地区に対する期待はある。	モデル地区として白鳥大橋、日下川新規放水路の2地区を選定した。狙い(ターゲット等)を明確にして進める。
10	2地区については、これからの推進の仕方、狙いを明確にする必要がある。	
11	このモデル地区以外も柔軟に支援できるような窓口などの体制を構築すべき。	モデル地区以外も、地域の要望に応じて支援していく。

1. 前回までの議論の概要 — 新型コロナ対策 —

今後のインフラツーリズムの推進に当たっては、各省庁が公開するガイドラインに準拠し、「密」とならないような見学・案内手法の検討等、対策を講じた上での推進が必要である。

《コロナ下におけるインフラツーリズム推進において考慮すべき事項》

- ・ 各省庁が公開するガイドラインへの準拠
:「旅行業における新型コロナウイルス対応ガイドライン」等、各省庁が公開するガイドラインに準拠し、「密」な状態とならないような見学、案内の体制構築が必要がある。
(例) 来島海峡大橋のエレベータ利用、各ダム堤体の監査廊での案内時等
- ・ 事業推進のスケジュール
: 今後、観光が回復した状況下においても、新たな感染拡大とならないよう、対策を講じる必要がある。会議体やファム・モニターツアー等については、機を逃すことのないよう実施を前提に計画し、準備を進めつつ、各モデル地区・ツアー行程ごとに感染リスクの洗い出しを行い、ガイドラインに応じた対応策を検討・実施する。

※参考ガイドライン一例

各所のツアー内容に応じて、必要な対応策をガイドライン等を参照して検討・実施する。

「新しい旅のエチケット」(国土交通省)

「旅行業における新型コロナウイルス対応ガイドライン」(日本旅行業協会、全国旅行業協会)

「旅行関連業における新型コロナウイルス対応ガイドラインに基づく国内修学旅行の手引き」(日本旅行業協会)

「貸切バスにおける新型コロナウイルス対応ガイドライン」(貸切バス旅行連絡会)

「宿泊施設における新型コロナウイルス対応ガイドライン」(全国旅館ホテル生活衛生同業組合連合会他)

「外食業の事業継続のためのガイドライン」(一般社団法人 日本フードサービス協会 他)

「小売業の店舗における新型コロナウイルス感染症感染拡大予防ガイドライン」(オール日本スーパーマーケット協会他)

1. 前回までの議論の概要 — 新型コロナ対策 —

カテゴリ	考えられるリスクと対策内容案
お客様への要請	<ul style="list-style-type: none">・事前の体調及び体温の確認依頼を要請する。・旅行中、熱中症予防に配慮の上、マスクの着用を要請する。
インフラ施設の利 用方	<ul style="list-style-type: none">・バスやエレベーター、案内会場等を利用する場合、一度に利用する人数制限や飛沫感染防止の観点に立った立ち位置のマーキングを行う。・バスやエレベーター、案内会場等の通気性の確保や、定期的な換気を行う。・エレベーターのボタン等への接触を特定のスタッフに限定する。・展示物や机、エレベーターのボタン等、接触部分を定期的に消毒する。・ガイド担当者等スタッフはマスク及びフェイスシールドを装着する。
その他、事前の 対策等	<ul style="list-style-type: none">・旅行中、要所要所での手洗い・うがいができるよう、適切な休憩場所等を選択する。・旅行中に体調不良となったお客様は、旅行から離団し、他の参加者への感染防止の対応を行うとともに、最寄りの保健所や医療機関に相談・受診できるよう事前に準備する。

※対策例は各種ガイドラインを参照。

※ファム・モニターツアー実施に当たっては、行程検討と合わせて各ガイドラインを参照し、各立ち寄り箇所等における対策を個別に検討・実施する。

1. 前回までの議論の概要 — 新型コロナ対策 —

◆(参考)民間による有料ツアーを実施している地域の状況

箇所	ツアー実施内容	実施状況
湯西川ダム	湯西川ダックツアー	<ul style="list-style-type: none"> 2020年4月からオープン予定だったが、7月中旬から催行。 (来訪者数) R元:2.1万人、R2:0.5万人
ハツ場ダム	道の駅ハツ場ふるさと館ハツ場ダムツアー	<ul style="list-style-type: none"> 2020年はツアーとして中止はしていないが、キャンセル多数のため、夏頃までは催行数が極めて少なかった。 (来訪者数) R元(やんば見放台):31万人、R2(ダム堤体):20万人
首都圏外郭放水路	見学会	<ul style="list-style-type: none"> 2020年3月から7月中旬までは受付中止。7月中旬以降、個人向け、団体向けに順次受付再開。 (来訪者数) R元:5.4万人、R2:2.0万人
琵琶湖疎水	びわ湖疎水船	<ul style="list-style-type: none"> 毎年春と秋に実施しているが、2020年は春の実施を中止。
明石海峡大橋、瀬戸大橋	塔頂ツアー	<ul style="list-style-type: none"> 毎年4月から11月に実施しているが、2020年は個人向けはすべて中止。旅行会社販売のツアーのみ10月、11月に実施した。

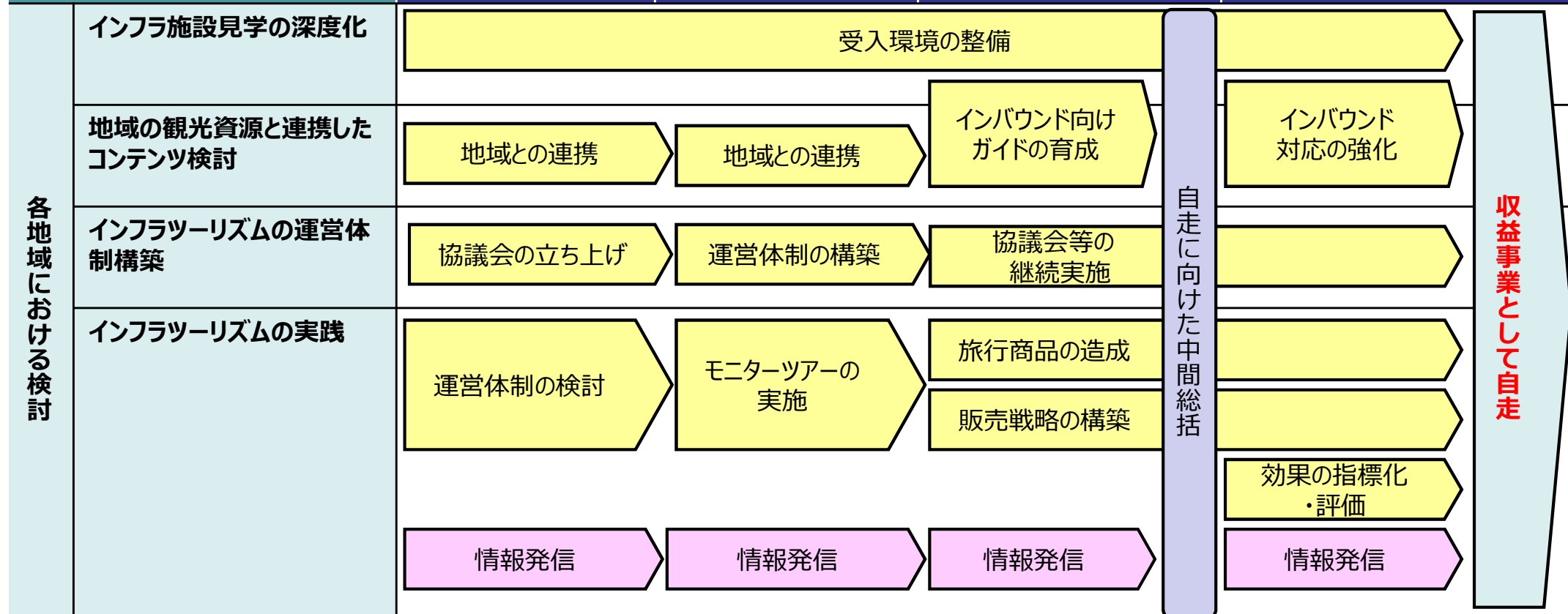
※R2は2月末時点

※R2は2月末時点

1. 前回までの議論の概要 – 事業全体スケジュール –

事業全体	2019	2020	2021	2022
インフラの観光資源化 全体の進め方	モデル地区における自走化に向けた支援			
インフラツーリズム拡大の手引きの 更新			手引き更新	全国展開

各地区	1年目	2年目	3年目	4年目以降
モデル地区（2019年選定）	2019	2020	2021	2022
モデル地区（2020年選定）	2020	2021	2022	2023



※令和2年8月時点での計画

2. 取組のタイプに応じた インフラツーリズム拡大方策

2. 取組のタイプに応じたインフラツーリズム拡大方策

◆インフラツーリズムに係る各取組の分類

- コンテンツの有料・無料、目的、手法の違いにより『収益型』『普及啓発型』『施設一般開放型』に区分
- 『収益型』については、施設単独で観光コンテンツとして成立させる「単独モデル」と、周辺観光資源等と連携して成立させる「地域連携モデル」に細別

◆取組のタイプを念頭に置いた拡大方策の検討

- インフラ施設単独または周辺観光資源等との連携による『収益型』の可能性を模索しつつ、地域の状況等に応じて『普及啓発型』『施設一般開放型』を含めたタイプを各取組について分類しインフラツーリズムの拡大を検討
- 取組の進捗等に鑑み、必要に応じてタイプは柔軟に再設定可能

インフラツーリズムに係る各取組をタイプに分類しつつ拡大方策を検討

有料

収益型

インフラが地域の観光コンテンツの一部として機能し、地域への観光経済波及に貢献している取組

単独モデル

インフラ独自の体験コンテンツや見学会が運営されることによって収益を生み出している取組

地域連携モデル

インフラが地域の観光コンテンツの一部として周辺観光資源と連携することで収益を生み出している取組

無料

普及啓発型

ハード・ソフトの整備により、インフラの意義や価値を理解するための機会を無利益で提供している取組

施設一般開放型

気軽に立ち寄ってインフラを見学したり併設したスペースで一息ついたりできる環境を整備し、開放する取組

※補足：これら分類型は現在様々な形で「インフラツーリズム」として行われている取組を調査し、分析して立てた仮説である。

2. 取組のタイプに応じたインフラツーリズム拡大方策

◆タイプ分けの組合せのイメージ ※実線枠は現在の取組、点線枠は今後の取組の可能性をイメージしている。

有料

無料

収益型 インフラが地域の観光コンテンツの一部として機能し、地域への観光経済波及に貢献している取組

普及啓発型

施設一般開放型

単独モデル

地域連携モデル

インフラ独自の体験コンテンツや見学会が運営されることによって収益を生み出している取組

インフラが地域の観光コンテンツの一部として周辺観光資源と連携することで収益を生み出している取組

ハード・ソフトの整備により、インフラの意義や価値を理解するための機会を無利益で提供している取組

気軽に立ち寄ってインフラを見学したり併設したスペースで一息ついたりできる環境を整備し、開放する取組

主塔塔頂ツアー
(□□大橋)

見学会
(□□大橋)

展望台、サイクリングロード
(□□大橋)

流域をめぐるツアー
(○○ダム)

見学会
(○○ダム)

天端通路
(○○ダム)

資料館
(□□橋)

展望台
(□□橋)

2. 取組のタイプに応じたインフラツーリズム拡大方策

◆取組の分類

①-1 有料ー収益型(単独モデル)

<p>取り組み事例</p>	<ul style="list-style-type: none"> インフラ施設の体験コンテンツ(吊り橋の橋脚登頂体験等)を収益事業として民間事業者に委託して実施している
<p>状況</p>	<ul style="list-style-type: none"> 施設管理者が運営委託を行い、委託された民間事業者が収益事業としてインフラ施設を用いてコンテンツを運営している 恒常的なインフラの見学会や体験コンテンツが独自で収益を生み出している
<p>目的・効果</p>	<ul style="list-style-type: none"> インフラ見学・関連体験による収益が地域の観光経済波及に寄与する
<p>主なターゲット</p>	<ul style="list-style-type: none"> アクティビティや特別な体験を好む消費者
<p>施設管理者の整備事項</p>	<ul style="list-style-type: none"> 収益事業として収支管理や予約・入場管理等を行う組織を発掘し、業務を委託するなどして運営を行ってもらう(委託先に施設の提供を行う) 安全確保に必要な装備及び人員の確保
<p>運営主体(受託事業者)の整備事項</p>	<ul style="list-style-type: none"> 視察やインフラファン層等、ターゲットに応じた大人向けガイドプログラムの整備や委託 ガイドや体験コンテンツの実施人員 収支管理や予約・入場を管理するフロー(システム)の構築

2. 取組のタイプに応じたインフラツーリズム拡大方策

◆取組の分類

①-2 有料ー収益型(地域連携モデル)

<p>取り組み事例</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・地元の旅行会社がインフラ施設の体験コンテンツ(ダム内部見学等)と周辺地域の観光を楽しむツアーを企画して販売している
<p>状況</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・インフラ見学・関連体験が地域の観光資源の1つとして、商品造成や集客を行う組織に活用されている ・インフラ施設を場として活用し、地域の観光関連事業等の収益事業が企画実施されている ・インフラ施設を中心に地域一体が観光地として発展している
<p>目的・効果</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・インフラ見学・関連体験が観光資源の一つとして、地域への誘客及び収益の拡大に貢献する ・一般消費者のインフラへの興味関心を高める
<p>主なターゲット</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・観光への興味関心が高い消費者 ・アクティビティや特別な体験を好む消費者
<p>施設管理者の整備事項</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・収益事業として商品造成や集客を行う組織と連携して、インフラ施設と地域の観光資源を組み合わせた商品造成を行ってもらう(連携する組織にコンテンツの提供を行う) ・インフラ設備と地域資源との連携したストーリーを落とし込んだ施設内ガイドプログラムの作成 ・安全確保に必要な装備及び人員の確保
<p>運営主体(受託事業者)の整備事項</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・インフラ設備を地域資源との連携したストーリーを落とし込んだ商品造成 ・収支管理や予約・入場を管理するフロー(システム)の構築

2. 取組のタイプに応じたインフラツーリズム拡大方策

◆取組の分類

② 無料－普及啓発型

取り組み事例	<ul style="list-style-type: none">・ インフラ施設(吊り橋等)の構造や設置効果等に関する資料館を設置している・ 教育団体等の見学を受け入れ、無料で案内をしている
状況	<ul style="list-style-type: none">・ 無料または経費のみの支払いで、インフラ施設を見学し、解説が受けられる(展示、またはガイド等による解説)・ 収益を得ることが目的化されていない
目的・効果	<ul style="list-style-type: none">・ インフラの意義目的に関する教育・啓発・ 自治体や事業者による視察を通じた技術広報
主なターゲット	<ul style="list-style-type: none">・ 教育団体・ 視察(土木事業関係者等)
施設管理者の整備事項	<ul style="list-style-type: none">・ ガイドや資料館等の運営人員・ ガイドプログラム及び案内板の整備・ 予約・入場管理等を行うフロー(システム)の構築・ 安全確保に必要な装備及び人員(見学可能な個所の安全整備や立ち入り禁止区域の仕切り、また必要があれば人員の育成等)
運営主体(受託事業者)の整備事項	—

2. 取組のタイプに応じたインフラツーリズム拡大方策

◆取組の分類

③ 無料ー施設開放型

取組み事例	・インフラ施設(ダム等)の一部を無料で見学できるように開放している(看板等での案内を行っている)
状況	<ul style="list-style-type: none"> ・無料でインフラ施設が見学できる ・駐車場や案内板等の整備がされており、来訪者は基本的な知識を入手できる ・公園等が併設されるなど滞留できる場がある
目的・効果	<ul style="list-style-type: none"> ・一般消費者のインフラ施設への立ち寄り機会を増やし、インフラへの興味関心を高める ・フォトスポットや憩いの場としての活用
主なターゲット	<ul style="list-style-type: none"> ・地域に観光等で来訪した消費者 ・周辺住民
施設管理者の整備事項	<ul style="list-style-type: none"> ・無料開放のための管理人員(常駐は不要なケースも) ・安全確保に必要な整備(見学可能な個所の安全整備や立ち入り禁止区域の仕切り等)
運営主体(受託事業者)の整備事項	—

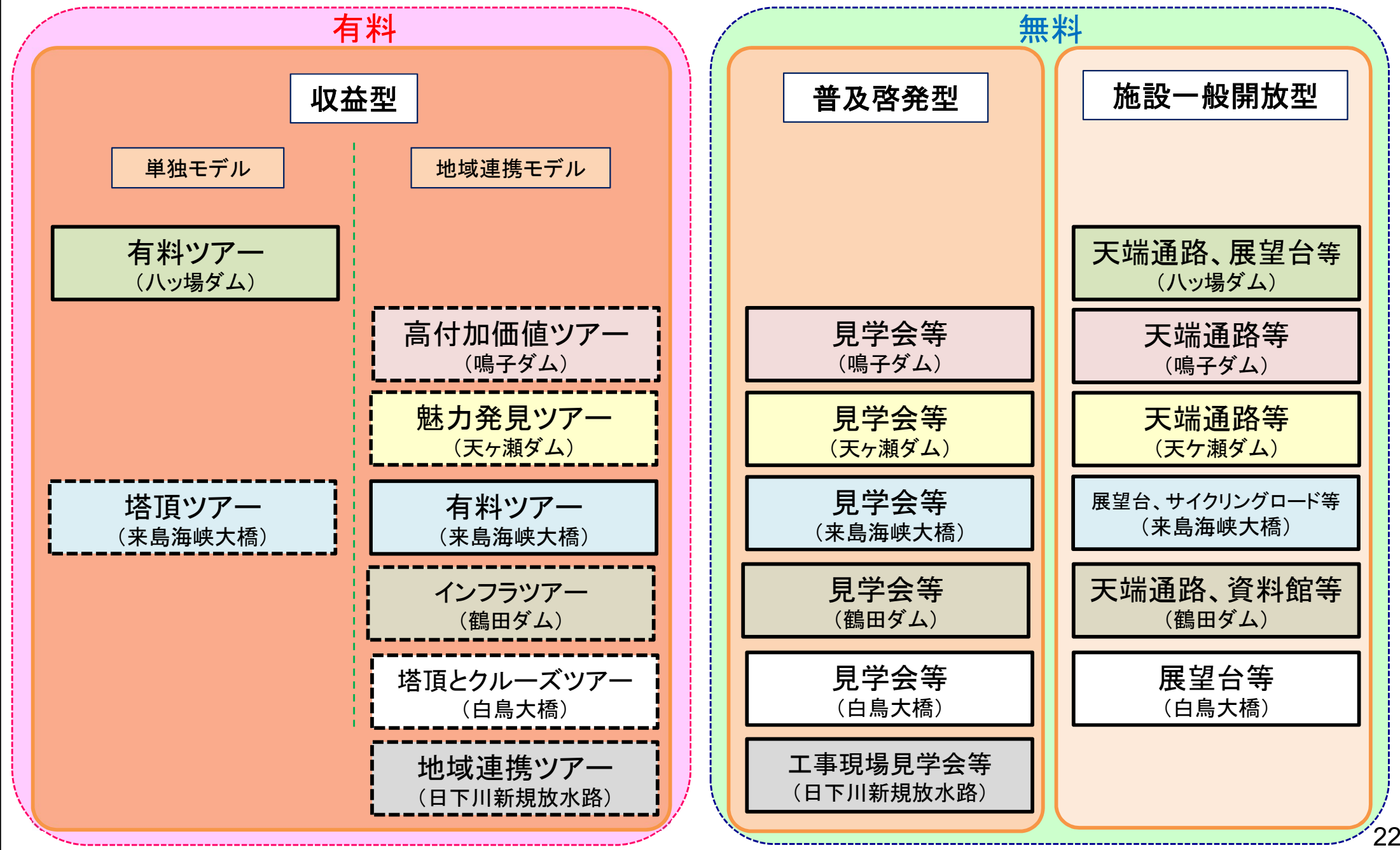
2. 取組のタイプに応じたインフラツーリズム拡大方策

◆事例の整理

分類	収益型（単独モデル）	収益型（地域連携モデル）	普及啓発型	施設一般開放型
取り組み事例	明石海峡大橋塔頂体験	水陸両用バス乗車 & 津軽ダム内部見学	下水道管理者による博物館の運営	白水ダム
施設名	明石海峡大橋（兵庫県）	津軽ダム（青森県）	小平ふれあい下水道館（東京都）	白水ダム（大分県）
インフラ種別	橋	ダム	下水道	ダム
管理者	民間	行政	行政	行政
運営事業者	民間（管理者のグループ会社）	民間（旅行会社）	行政	行政
料金/大人	3,000円	3000円	無料	無料
実施期間	通年（2021年の催行は未定）	5月～10月（月2回、2021年予定）	通年	通年（現在工事中）
ツアー時間	30分～60分	130分（内ダム見学70分）	－	－
最大パーティー規模	10人～100人程度	各便定員38名	－	－
プロモーション	管理会社HP	旅行会社HP	インフラ施設HP	自治体HP
概要	民間の管理者のグループ会社が、塔頂体験を単独コンテンツとして販売。	水陸両用バスツアーの予約受付業務を行う旅行会社による、水陸両用バスの乗車とダムの内部見学をセットにしたツアー。	本物の下水道管の中に入ることができる日本で唯一の施設。入館は無料で、映像システムやパネル展示によって下水道の役割や仕組みを学ぶことができ、大型モニターで下水をきれいにする微生物の観察ができる。	灌漑用水の調整ダムで、流れる水が白い衣のように美しく落ちている姿が美しく、国の重要文化財に指定されている。駐車場とトイレの設置があり、通年24時間見学が可能。
効果	塔頂体験を体験コンテンツとして収益化。	ダムの内部見学を「特別体験」とし、地域の観光資源と連携して収益化。	インフラ設備の機能に関する学習機会の提供。	インフラへの理解促進
ターゲット	体験アクティビティに興味のある個人旅行者 インフラ施設に興味のある個人旅行者	体験アクティビティをターゲットとした団体・個人旅行者 地域観光資源をターゲットとした団体・個人旅行者	教育団体	地域の個人旅行者
その他の取組	・博物館の運営（普及啓発型） ・教育旅行向け橋下見学（普及啓発型）	・職員の案内による内部見学（普及啓発型）	・団体見学（普及啓発型） ・小学生向け学習講座（普及啓発型）	－

2. 取組のタイプに応じたインフラツーリズム拡大方策

◆モデル地区での取組の分類(現状) ※実線枠は現在の取組、点線枠は今後の取組の可能性をイメージしている。



2. 取組のタイプに応じたインフラツーリズム拡大方策

◆今後の予定

設定したインフラツーリズム取組分類型の仮説に対する旅行者の受容性を以下のWEB調査により検証する

主旨

- インフラが観光資源になりうる可能性について調査する
- 各モデルにおいてターゲットと仮定した層に需要があるのか調査する
- 各モデルにおける地域資源との連携方や地域経済への貢献方についての可能性を調査する

調査対象

- 20～69歳の男女、400名
- 1年以内に国内観光をしたい方

設問内容(イメージ)

(4分類それぞれのツアーや見学プログラム事例を明示したうえで、以下の設問への回答を取得)

- このようなツアーや見学プログラムを知っているか。参加したいか/なぜ参加したいか。参加形態は。
- ツアーやプログラムのどこに魅力を感じるか。魅力向上のために求める設備は何か(トイレ、説明板など)。
- 魅力向上のために組み合わせる周辺観光資源はどのようなものが良いか。
- 旅行を検討する際に参考にするメディアは。年間の旅行予算は。

3. 各モデル地区の進捗状況

3. 各モデル地区の進捗報告 — 事業全体スケジュール —

— 事業フロー(1年目) —

現地協議会準備

- ・既存の活用しうる組織をベースに連携が必要な団体を追加

第1回現地協議会
事業実施方針(案)、
ファムツアーコースの作成

- ・インフラと周辺地域との連携に向け、現状把握と課題抽出
- ・ツアーを計画し、継続的に実施していくための事業実施方針(案)の検討
- ・ファムツアーのコース、検証項目の検討

ファムツアーの実施

- ・インバウンド旅行関係者を対象にツアーを実施
- ・アンケートと意見交換会を実施し、インフラ見学及び地域の観光資源に関する評価、課題、改善点等の意見を集約

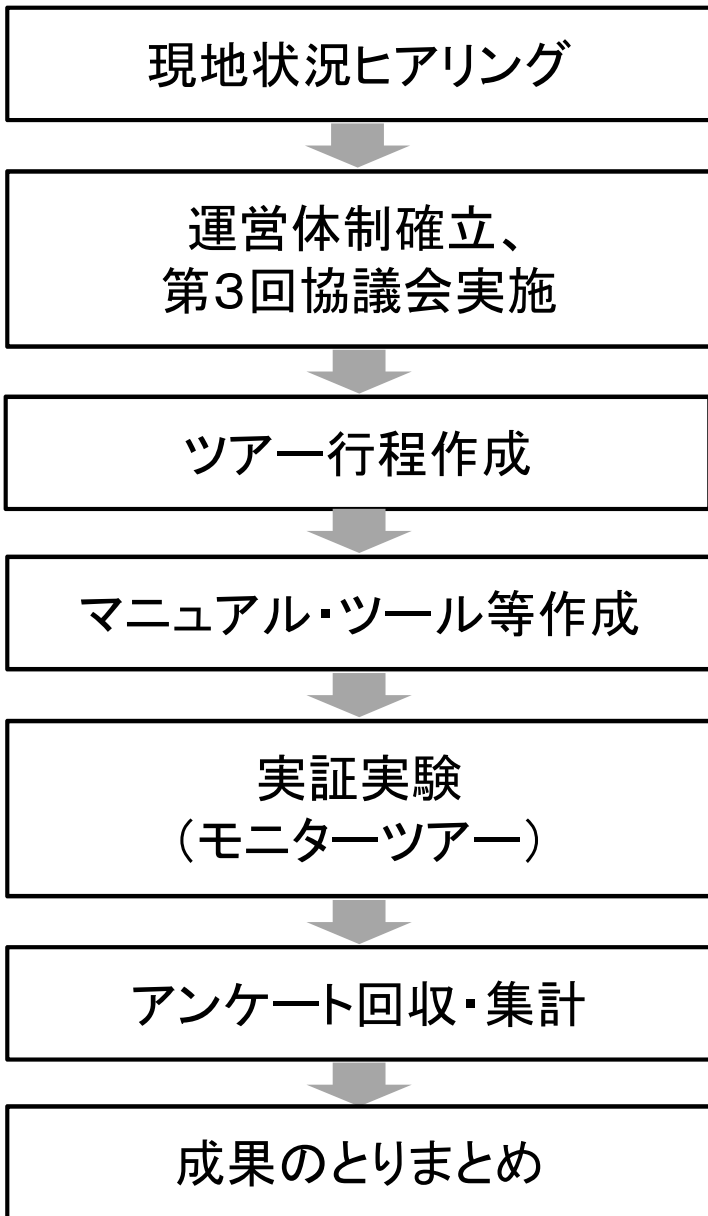
第2回現地協議会
事業実施方針更新
ツアー提案シート作成
運営体制の検討
検討課題の整理

- ・ファムツアーで指摘された評価、課題、改善点を踏まえた事業実施方針(案)の見直し
- ・事業実施方針に基づき、具体的な商品造成を目指したツアー提案シートの検討
- ・地域の実情を踏まえた運営体制の検討、検討課題の整理

成果のとりまとめ

3. 各モデル地区の進捗報告 — 事業全体スケジュール —

— 事業フロー(2年目) —



- ・新型コロナウイルスの影響を考慮してWEB会議等に対応

- ・自走化に向けた役割分担の確認
- ・ストーリーの検討
- ・ツアー行程に関する意見集約

- ・モニターツアーに向けた募集チラシ、プロモーションツールの作成
- ・ツアー運営マニュアルやアンケートの作成

- ・自走化に向けて、モデル地区でのモニターツアーを実施
- ・継続を前提に収益性や地元への影響等を検証

3. 各モデル地区の進捗報告 —協議会、モニターツアー等の実施状況、予定—

★: 現地関係者打合せ等

	R2年度												R3年度
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	予定
鳴子ダム		6/11 整備局打合せ			8/17 現地協議会		10月～11月 モニターツアー(計4回)					3/5 現地協議会	自走化に向けて実施方針案を協議予定
天ヶ瀬ダム		6/12 整備局打合せ							12/21～1月 検討会ヒアリング			3/9 現地協議会	7月頃にモニターツアー実施予定
来島海峡大橋		6/12 整備局打合せ				9月～11月 検証ツアー							年度明けに協議会実施予定 モニターツアーは秋以降想定
鶴田ダム		6/12 整備局打合せ						11/28～29 モニターツアー				2/16 現地協議会	自走化に向けて実施方針案を協議予定
ハッ場ダム	※R2.3ダム完成		施設の開放、地元主体のツアー実施										—
白鳥大橋					8/21 整備局打合せ		10/30 現地協議会					3/19 現地協議会	8月頃にモニターツアー実施予定
日下川新規放水路					8/21 整備局打合せ				12/2 現地協議会				年度明けに協議会、ファムツアー実施予定

3. 各モデル地区の進捗報告 -鳴子ダム①-

◆令和元年度の成果を踏まえた今後の検討内容

①インフラ施設見学の深度化	<ul style="list-style-type: none"> 「水」を主役に見学の通年化と夜間見学の検討 見学受入可能な人数と価格設定、組み合わせの検討
②地域の観光資源と連携したコンテンツ検討	<ul style="list-style-type: none"> 「水」を主役に世界農業遺産を組み合わせたストーリーの策定 オルレなど体験型の素材との組み合わせ
③インフラツーリズムの運営体制構築	<ul style="list-style-type: none"> 運営体制、役割分担の検討、収益化を目指したモデルの構築
④インフラツーリズムの実践	<ul style="list-style-type: none"> 販売手法の検討、情報発信計画の策定

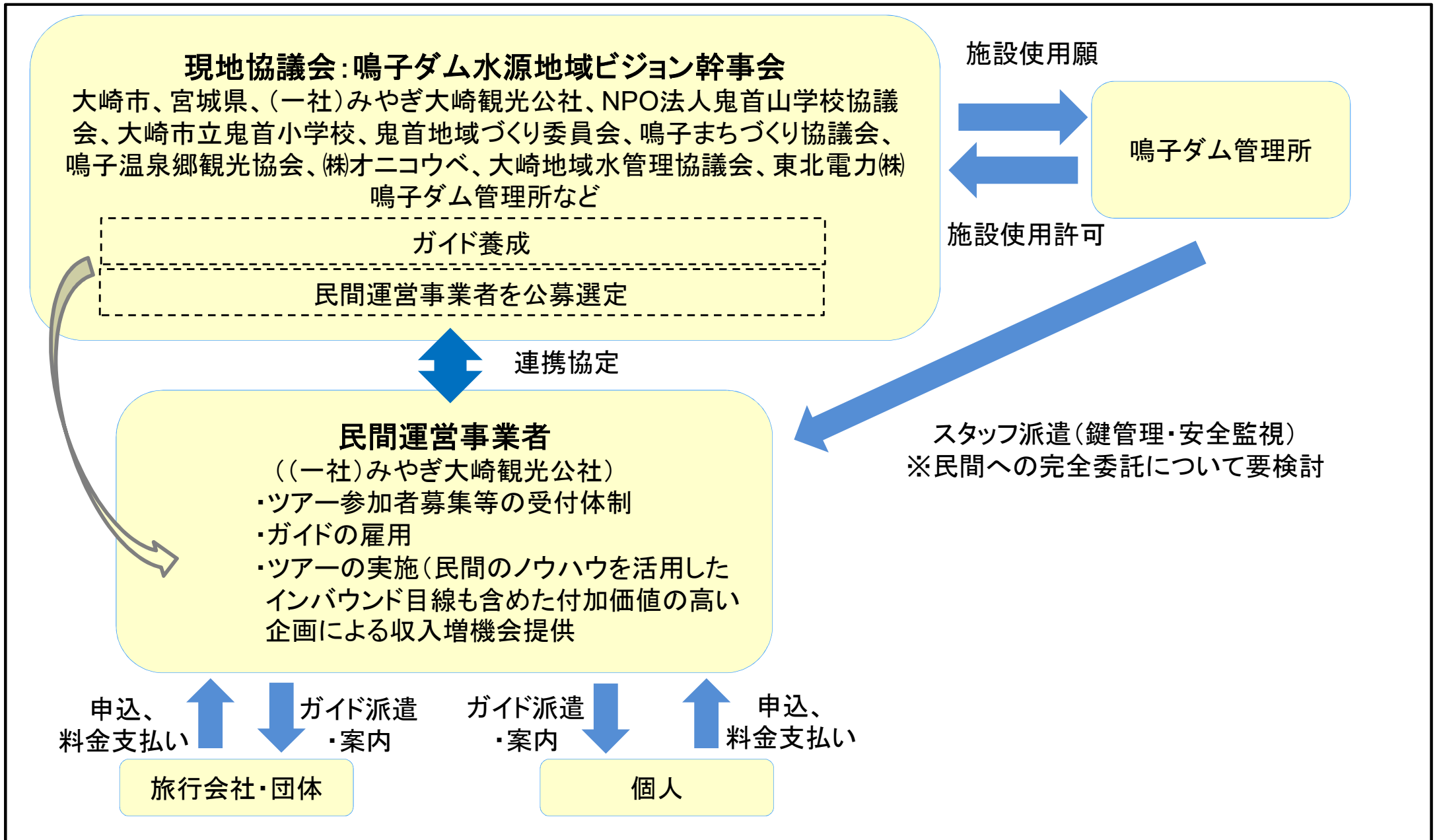


◆令和2年度の事業内容

①運営体制の構築	<ul style="list-style-type: none"> 中心組織となる大崎市との連携、民間企業(一社みやぎ大崎観光公社)の体制構築による自走化に向けた事業推進
②ガイドの担い手の確保	<ul style="list-style-type: none"> ツアー内容に応じて地元協力者を調整
③周辺地域と連携したガイドストーリーの構築	<ul style="list-style-type: none"> テーマ「水」(上流から下流まで)
④すだれ放流の実施検討	<ul style="list-style-type: none"> 東北地方整備局にて検討

3. 各モデル地区の進捗報告 -鳴子ダム②-

◆ 運営スキーム(案)



3. 各モデル地区の進捗報告 -鳴子ダム③-

◆ 現地協議会

< 構成員 >

既存組織：鳴子ダム水源地域ビジョン幹事会

大崎市、宮城県、(一社)みやぎ大崎観光公社、NPO法人鬼首山学校協議会、大崎市立鬼首小学校、鬼首地域づくり委員会、鳴子まちづくり協議会、鳴子温泉郷観光協会、(株)オニコウベ、大崎地域水管理協議会、東北電力(株)、鳴子ダム管理所

その他連携団体：NARU-GO！再生プロジェクト

< 第3回協議会 >

○日 時：令和2年8月17日 13:30～15:30

○場 所：大崎市図書館会議室

○議 事：

- (1)今年度事業の説明
- (2)鳴子ダムにおける取組の現状報告
- (3)モニターツアーに関する協議
- (4)今後のスケジュールについて
- (5)その他

3. 各モデル地区の進捗報告 -鳴子ダム④-

◆ モニターツアーの企画

一般募集によるモニターツアーを実施し、インフラツーリズムの自走化に向けて、地域主体の取組の検証及び論点・課題の抽出を行う。実施に当たってはインフラツーリズムの地域への定着を目指し、鳴子温泉の観光実態に合わせ、**コンセプトの異なる2パターンのモニターツアー**を検討・実施する。

ツアー	コンセプト	ポイント	将来イメージ
1日1組限定 高単価・高付 加価値プラン	<ul style="list-style-type: none"> ・鳴子温泉の旅館宿泊客（インバウンド含む）を対象とする。 ・少人数に限定した、特別感のあるツアーを高単価で提供する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・鳴子ダム管理所見学 ・パトロール船から紅葉見学 ・ダム天端・内部見学（インクライン乗車、試験放流見学） <p>【地域周遊】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地獄谷遊歩道 	<ul style="list-style-type: none"> ・常時又は期間限定で、旅館宿泊客を対象として現地で予約可能なツアーを販売する。 ・乗船体験・堤体内部見学は民間事業者による運営を想定。
団体バスツアー	<ul style="list-style-type: none"> ・主として首都圏及び仙台都市圏居住者、インバウンドを対象とする。 ・一般募集による鳴子ダムと地域周遊を組み込んだ団体バスツアーを提供する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・鳴子ダム管理所見学 ・ダム天端・内部見学（インクライン乗車、試験放流見学） <p>【地域周遊】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地獄谷遊歩道 ・あ・ら・伊達な道の駅 	<ul style="list-style-type: none"> ・季節ごとに一般募集による団体バスツアーを販売する。 ・周辺の観光資源との連携により、地域経済の活性化に貢献する。

3. 各モデル地区の進捗報告 -鳴子ダム⑤-

◆第3回協議会意見要旨

- 観光タクシープランについてはもっと特化して良い。必ず鳴子温泉に泊まる形に限定した方が良い。
- いずれはインフラツーリズムと農業遺産を組み合わせしていく可能性があると考える。
- 自走するにはそれなりの単価をもらわないとできない。
- 告知の方法が今までの課題である。行きたい人は必ずいるはずなので、そのターゲットに伝わる広報の仕方を考えなくてはならない。コンテンツのイメージを周知することができれば今後自走できると考えている。
- モニターツアーの2つのプランについて、実施に向けて進めるということで良い。



◆モニターツアーへの反映

- ① ターゲットや担い手、地域資源との連携、プロモーション、予約、手配の観点から今後の地元主体での実施に向けた検証を行う。
- ② どの程度の単価であれば参加する人がいるか、利益が出るのかも想定した、収支計画についても検証する。

3. 各モデル地区の進捗報告 -鳴子ダム⑥-

◆ 現地協議会

< 構成員 >

既存組織：鳴子ダム水源地域ビジョン幹事会

大崎市、宮城県、(一社)みやぎ大崎観光公社、NPO法人鬼首山学校協議会、大崎市立鬼首小学校、鬼首地域づくり委員会、鳴子まちづくり協議会、鳴子温泉郷観光協会、(株)オニコウベ、大崎地域水管理協議会、東北電力(株)、鳴子ダム管理所

その他連携団体：NARU-GO！再生プロジェクト

< 第4回協議会 >

○日 時：令和3年3月5日 10:00～12:00

○場 所：大崎市図書館会議室

○議 事：

- (1)今年度事業の説明
- (2)鳴子ダムにおける取組の現状報告
- (3)モニターツアーに関する協議
- (4)今後のスケジュールについて
- (5)その他

3. 各モデル地区の進捗報告 -鳴子ダム⑦-

◆モニターツアーの内容

- 今回のモニターツアーでは、来年度以降の自走化に向けて異なるターゲットを取り込むため、2つのツアーを実施することとなった。
- 1つ目のプランとして高単価の観光タクシープランを設定した。鳴子温泉の宿泊客をターゲットに1日1組限定の少人数での参加条件とした。地獄谷遊歩道を散策した後に昼食をとり、鳴子ダム見学ではパトロール船からの紅葉見学やインクラインの乗車、試験放流の見学等を体験できるコースを設定した。
- 2つ目のプランは日帰り参加可能な団体向けのバスツアーを設定した。仙台駅を出発地とし、鳴子ダムでの試験放流を見学するほか、地獄谷遊歩道や道の駅を周遊箇所に設定した。

プラン①観光タクシープラン

プラン②団体バスツアー

予定時間	内容
9:30	源蔵の湯 鳴子観光ホテル 出発
10:00	地獄谷遊歩道見学
11:30	レストラン鳴子の風(ダムカレー)
13:00~ 16:00	鳴子ダム見学 (管理所見学⇒パトロール船から紅葉見学⇒ダム天端・内部見学・インクライン乗車体験⇒試験放流見学)
16:30	源蔵の湯 鳴子観光ホテル 到着・解散

予定時間	内容
8:30	仙台駅出発
11:00	鳴子温泉駅到着
11:30	地獄谷遊歩道見学
12:10	レストラン鳴子の風(ダムカレー)
13:30~ 15:20	鳴子ダム見学 (操作室⇒七色トンネル⇒ダム天端見学⇒ダム直下からの見学⇒試験放流見学)
15:30	鳴子温泉駅
17:00	あ・ら・伊達な道の駅(自由時間30分)
19:00	仙台駅到着

3. 各モデル地区の進捗報告 -鳴子ダム⑧-

プラン①：観光タクシープラン

項目	内容
コース名	【1日1組限定・鳴子発着】ダム湖パトロール船からの紅葉鑑賞と内部見学付き観光タクシー宿泊付きプラン2日間
実施日	10月24日（土）、31日（土）
最小催行人員	1名
添乗員	なし
運営会社・申込先	みやぎ大崎観光公社（募集型企画旅行）
タクシー会社	鳴子中央タクシー
宿泊施設	源蔵の湯 鳴子観光ホテル
参加人数	10月24日（土）：1組3名
販売価格	4名1台の場合：20,950円（1名分）、3名1台の場合：22,850円（1名分）、2名1台の場合：24,450円（1名分）、1名1台の場合：41,500円（1名分） ※Gotoキャンペーン対象35%給付後の価格
食事条件	朝1回・昼0回・夕1回
集合場所	源蔵の湯 鳴子観光ホテル 9：30
コース説明	～鳴子の美しい紅葉を、混雑を気にせずダム湖から独り占め～ ダム湖をパトロール船で遊覧し、普段は絶対に観られない水面に映える美しい紅葉をご覧いただけます。ダム管理所長による貴重なダム内部見学と、大迫力の試験放流があなたのためだけに実施される、贅沢尽くしでちょっとアカデミックな観光タクシープランです。

3. 各モデル地区の進捗報告 -鳴子ダム⑨-

プラン②：団体バスツアー

項目	内容
コース名	【仙台駅・鳴子温泉駅発着】鳴子温泉の観光名所を大満喫！ダム特別見学付きバスツアー
実施日	10月30日（金）、11月5日（木）
最小催行人員	5名
添乗員	あり
食事条件	朝0回・昼0回・夕0回
集合場所	仙台駅8:30 または 鳴子温泉駅11:30
運営会社・申込先	みやぎ大崎観光公社（募集型企画旅行）
バス会社	仙南交通（中型バス） バスガイド付き
参加人数	11月5日（木）：男性2名、女性13名 計15名
販売価格	1名あたり 3,250円 ※Gotoキャンペーン対象35%給付後の価格
コース説明	～大迫力の試験放流が見られる鳴子ダム特別見学付きバスツアー～ このツアーのためだけに、ダム管理所長が直々にダムをご案内＆試験放流を実施します！ダム頂上から見渡す紅葉は絶景！混雑知らずで眺望を満喫できます。発着地を選べるから、仙台から利用して鳴子に一泊するのもおすすめです。

3. 各モデル地区の進捗報告 -鳴子ダム⑩-

◆ モニターツアーの実施状況

観光タクシープラン

ダム管理所での説明



パトロール船



インクライン



団体バスツアー

地獄谷



試験放流見学



3. 各モデル地区の進捗報告 -鳴子ダム⑪-

◆ モニターツアーの実施結果

検証項目	検証内容、結果
ターゲット	<ul style="list-style-type: none">・ プレミアムツアーとしての観光タクシープラン、団体バスツアーの2プランを設定。バスツアーの多くは仙台在住者であった。
担い手	<ul style="list-style-type: none">・ みやぎ大崎観光公社を実施主体とする運営体制を構築
商品造成(地域連携)	<ul style="list-style-type: none">・ 広く知られていない新たな観光資源の発掘や、宿泊・消費行動を促進する連携施設を設定・ ガイドシナリオを作成
プロモーション	<ul style="list-style-type: none">・ 観光公社のHPでの募集のほか、フリーペーパー、メルマガ等による広報を実施。ツアーを知ったきっかけはフリーペーパーが多かった。
収支計画	<ul style="list-style-type: none">・ 一定の利益を得られる収支計画のシミュレーションを実施
参加者の評価	<ul style="list-style-type: none">・ インフラに対する理解が促進されたほか、ほかの人に鳴子ダムの見学を推薦したいとの意見が多数得られた

3. 各モデル地区の進捗報告 -鳴子ダム⑫-

◆ガイドマニュアルの作成

- 鳴子ダムにおけるガイドを実際に行うことを想定して、ガイドマニュアル案を作成した。
- ガイドのコツや安全対策、具体的なガイド地点、ガイド内容などを記載。
- ガイド前半における「心構え」や「基礎技術」は、全国各地でのガイド現場を俯瞰し一般論化した記載となっている。

ガイドマニュアルの構成

<p>【本マニュアルの構成】</p> <p>1. 心構え&基礎技術編</p> <p> (1) “伝わる”ガイド 10の心構え</p> <p> (2) 10の心構えを紐解く</p> <p> (3) すぐにできる！伝わるための「8つのコツ」</p> <p>2. 鳴子ダムガイド実践編</p> <p> (1) 鳴子ダムのガイド地点とガイド内容</p> <p> (2) 参考になる資料など</p>

ダム天端におけるガイド内容(抜粋)

④ ダム天端	
案内の概要・伝える上での配慮	目指す“参加者の状態”
<ul style="list-style-type: none"> ●ダムの高さや壮大な眺めを感じてもらう。 ●ダム建設、維持管理に関する歴史や技術を、改めて伝える。 ●参加者が広く散ってしまう場所。解説は、一箇所にしっかり集めてから実施。 ●自由時間をとる際には、再集合の時刻と安全配慮事項をしっかりと伝える。 ●写真撮影の時間をとる。 	<ul style="list-style-type: none"> ●ガイドツアーのクライマックスと認識。 ●ダムの壮大さに心を動かされている。 ●日本におけるダム建設の先駆的役割を果たした場所であることを認識。 ●昔の点検作業の大変さを理解する。 ●リラックスした雰囲気に含まれている。 ●写真撮影をしている。
<p>【解説内容例】</p> <p>➢ 高さと長さ：ダムの高さは94.5メートル。小学4年生の身長約70倍。長さは215メートル。新幹線の約9両分。</p> <p>➢ インクライン：点検のためのケーブルカー。4人乗り。1987年に完成している。その前までは、梯子を上り下りしながらの点検作業だった。まさに命がけ。現在は、インクラインからつながる2本の管理通路があり、壁の中まで通っている。</p>	

3. 各モデル地区の進捗報告 -鳴子ダム⑬-

◆第4回協議会意見要旨

- 紅葉シーズン以外も含めて今後通年化していくための検討が必要である。また、具体的にどこで消費行動を行えるかも含めて検討が必要である。
- モデルツアーで組み合わせた地獄谷は、足場が悪くキャパシティ問題もあるので、環境整備等が必要。
- 収支計画は成り立つこととなっているが、ダム管理所が担っている部分も大きいいため見えていないコストもある。今後の検討課題である。
- すだれ放流は実施回数が限られるが、すだれ放流のように見えるライトアップを検討している。こちらは年間を通して実施可能である。
- ガイドマニュアルができたことで、これまで感覚でやってきたことが明確化された。



◆今後の自走に向けた取組(案)

- ① 通年で実施できるコンテンツ、ツアーの検討
- ② 民間委託や、自走化時の収支計画検討
- ③ ガイドマニュアルの深度化

3. 各モデル地区の進捗報告 -鳴子ダム⑭-

◆令和2年度成果を踏まえた今後の検討事項

<p>検討① インフラ施設見学の深度化</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ ライトアップ等を活用したすだれ放流に変わるコンテンツ形成 ・ ボートによる周遊などダム湖の活用
<p>検討② 地域の観光資源と連携したコンテンツ検討</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 鳴子温泉を中心とした施設等と連携し、「地域でどこでお金が落ちるか」を具体的に検討 ・ 大崎耕土など流域との連携 ・ 地獄谷などに置ける、必要に応じた環境整備
<p>検討③ インフラツーリズムの運営体制構築</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 観光公社を中心としたツアー実施、販売体制の構築 ・ 民間事業者の参入も見据えた体制検討
<p>検討④ インフラツーリズムの実践</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ ターゲット層を踏まえた広報方法の検討 ・ デスティネーションキャンペーンなどとの連携



◆令和3年度の事業内容

<p>①コンテンツ、ツアーの通年化の検討</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 紅葉や新緑の時期以外にも魅力を感じるコンテンツの発掘、検討を行い、これを組み込んだツアー内容を検討する。 ・ ガイドマニュアルの深度化を図る。
<p>②広域周遊ルート、ツアーの検討</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 大崎耕土など下流域も含めた、ダムを中心とする広域のストーリーを検討し、ツアーを形成する。
<p>③民間委託や収支計画の検討</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ ボート運行の民間委託や、民間事業者参入時の収支計画について検討する。
<p>④ツアーの本格販売</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 個人・団体向けのツアーの本格販売を開始する。

3. 各モデル地区の進捗報告 -鳴子ダム⑮-

◆鳴子ダムにおける今後の事業実施方針

- ・ モニターツアーの結果を踏まえ、通年で実施できるコンテンツ、ツアーの検討、民間委託や自走化時の収支計画の検討、ガイドマニュアルの深度化などを行う。
- ・ 個人向け、団体向けプランのさらなる検討を行う。

◆鳴子ダムにおける個人向け、団体向けプラン(案)

- ・ モニターツアーの検証結果をふまえて、今後実施が可能と考えられる鳴子ダムのツアー商品を検討した。

種類	販売方法	内容	販売時の留意点
個人向け旅行商品	観光タクシープラン単品の販売	鳴子温泉宿泊者をターゲットとしたプラン。ダム湖での乗船体験など少人数に限定した特別感のあるツアー内容を提供。	マイカー利用による現地集合・解散のプランや、ふるさと納税の返礼品としても販売可能。
団体向け旅行商品	旅行会社向けパッケージ商品としての販売	団体向け企画手配商品として販売を行う、バスツアー向けの現地プラン。地獄谷遊歩道での温泉卵体験やガイド付きの鳴子ダム見学や点検放流を提供。	紅葉時期やすだれ放流等イベント実施日に合わせて販売し、ツアーが発生すれば手配を行う形態に特化することで、募集ツアー主催のリスクを回避し、収益の確保を目指す。

3. 各モデル地区の進捗報告 -鳴子ダム⑬-

◆今後販売を予定するツアー内容(案)

【個人向け旅行商品】

項目	内容
コース概要	ガイド付きのダム内部見学と小型ボートでのダム湖遊覧が体験できる観光タクシープランです。大迫力の点検放流やインクラインの乗車体験など普段は体験出来ない鳴子ダムを満喫できます。
出発時間	9:30/12:45/13:45 ※各時間1組限定(1組:1-4名)
所要時間	約3時間30分
除外日	年末年始のほか、一部作業日
料金	2名1組の場合 15,000円/人、3名1組の場合 12,000円/人、 4名1組の場合 9,000円/人 ※おとな・こども同額
申込締切	出発日の14日前
行程	鳴子温泉駅==所要15分==鳴子ダム内部見学(虹色トンネル、インクライン乗車、監査廊見学、点検放流)、 ダム湖遊覧(所要3時間)==所要15分==鳴子温泉駅



ダム湖遊覧に使用する小型ボート



虹色トンネル



点検放流の様子

【団体向け旅行商品】

項目	内容
コース概要	バスツアー向けの現地プラン。地獄谷遊歩道での温泉卵体験やガイド付きの鳴子ダム見学と大迫力の点検放流が楽しめます。
除外日	年末年始のほか、一部作業日
料金	3,000円/人 ※おとな・こども同額(バス代別、ガイド代・温泉卵体験費用込)
申込締切	出発日の14日前
行程(例)	地獄谷温泉卵体験==鳴子ダム(所要90分)

3. 各モデル地区の進捗報告 -天ヶ瀬ダム①-

◆令和元年度成果を踏まえた今後の検討事項

検討① インフラ施設見学の深度化	<ul style="list-style-type: none"> ・ 繰り返し見学に参加してもらえるようなより満足度の高い見学内容の検討 ・ 民間主導の運営体制の検討
検討② 地域の観光資源と連携したコンテンツ検討	<ul style="list-style-type: none"> ・ 宇治茶とダムを結ぶストーリーの検討
検討③ インフラツーリズムの運営体制構築	<ul style="list-style-type: none"> ・ 自治体、DMO、観光協会、ツアー実施事業者の役割分担検討
検討④ インフラツーリズムの実践	<ul style="list-style-type: none"> ・ 情報発信やプロモーション等の検討

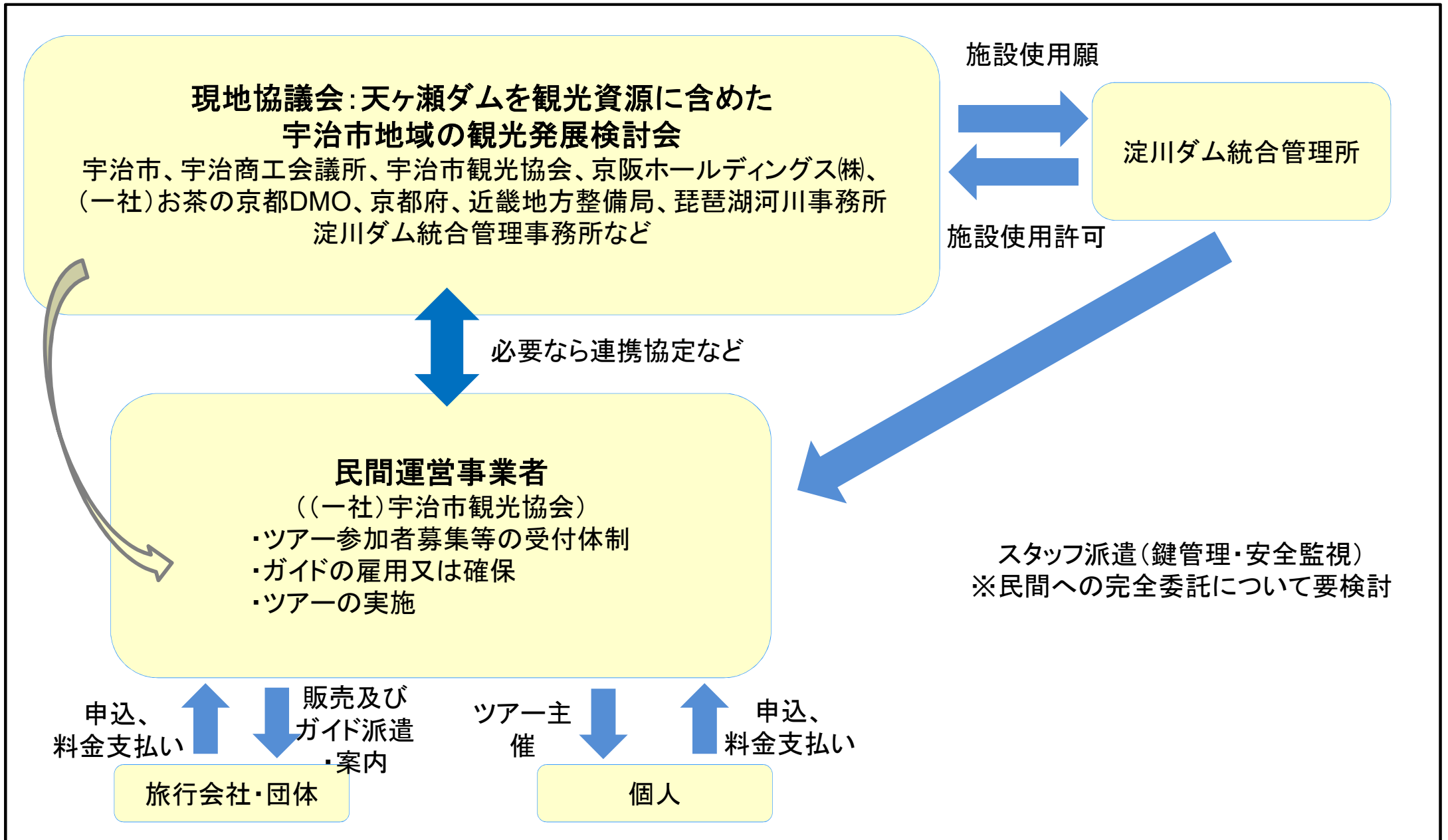


◆令和2年度の事業内容

①運営体制の構築	<ul style="list-style-type: none"> ・ 企画・予約管理:お茶の京都DMO、実施:宇治市観光協会、流通:京阪の連携体制を維持し、個人向けの商品造成ができるよう淀川ダム統合管理所と連携し検討要
②周辺地域と連携したガイドストーリーの構築	<ul style="list-style-type: none"> ・ 既存のインフラのみのガイド内容の洗い出し→周辺観光資源と連携したブラッシュアップ
③ツアー商品造成・実証	<ul style="list-style-type: none"> ・ 団体向けツアーは既にある→周辺観光資源と連携させた個人向けツアー商品造成

3. 各モデル地区の進捗報告 -天ヶ瀬ダム②-

◆ 運営スキーム(案)



3. 各モデル地区の進捗報告 -天ヶ瀬ダム③-

◆ 現地協議会

< 構成員 >

既存組織：天ヶ瀬ダムを観光資源に含めた宇治市地域の観光発展検討会

宇治市、宇治商工会議所、宇治市観光協会、京阪ホールディングス(株)、
(一社)お茶の京都DMO、京都府、近畿地方整備局、琵琶湖河川事務所、
淀川ダム統合管理事務所

< 第2回協議会 >

○日 時：令和3年3月9日 15:00～15:50

○場 所：WEB

○議 事：

- (1) インフラツーリズム魅力倍増プロジェクトの取組
- (2) これまでの検討状況と今後の事業実施予定
- (3) その他

3. 各モデル地区の進捗報告 -天ヶ瀬ダム④-

◆モニターツアーを通して以下の事項を検証する。

※実施主体：宇治市観光協会

段階	検証事項	検証目的	方法(案)
造成	1 事業者及び広域DMOや自治体と連携したプロモーション及び集客の実施	<ul style="list-style-type: none"> 旅行会社や事業会社との連携方について策定し、恒常的な広報形態及び販路を確保する 	<ul style="list-style-type: none"> 旅行会社や事業会社への委託販売及びプロモーションの実施 DMOや自治体または地域旅行会社の広報媒体への掲載依頼(定期発行紙やSNS、HP等) 広報ツールの作成(チラシ、動画)
	2 ボランティアガイドとの連携強化	<ul style="list-style-type: none"> インフラツアーを通してお客様に伝えるメッセージや天ヶ瀬ダムの魅力を最大化する 	<ul style="list-style-type: none"> 淀川ダム管理所と連携した講習実施
実施	3 (バス) ツアー商品のオペレーション	<ul style="list-style-type: none"> 団体商品造成における知見を得る 団体/個人商品のオペレーションにおける実績を得る コロナ対策 	<ul style="list-style-type: none"> 団体商品の造成 モニターツアーの実施
	4 雨天時の特別体験内容の試験実施	<ul style="list-style-type: none"> ダムの特別体験が可能な月3日を最大限に活用できるよう、雨天時でも催行可能なコンテンツを用意する 	<ul style="list-style-type: none"> 雨天時特別体験の催行 アンケート調査
実施後	5 ターゲットの精緻化	<ul style="list-style-type: none"> モニターツアーへの参加者の属性や需要、平日/土日別の集客度等をはかり、ダムの特別体験が可能な月3日を最大限に活用する 	<ul style="list-style-type: none"> 平日と土日でのモニターツアーの実施 アンケート調査
	6 価格設定	<ul style="list-style-type: none"> 旅行者の需要に即した商品造成につなげ、集客度をあげて利益や地域への貢献度の最大化を図る 	<ul style="list-style-type: none"> 収支計画の策定 アンケート調査
	7 ダムの魅力の検証	<ul style="list-style-type: none"> 旅行者の需要に即した商品造成につなげ、集客度をあげて利益や地域への貢献度の最大化を図る 	<ul style="list-style-type: none"> アンケート調査

モニターツアー

- 宇治市観光協会がインフラツアーを提供していくための体制構築を推進する
- 天ヶ瀬ダムへの需要や、貴重な機会を最大限に活用するための方法を思案する

3. 各モデル地区の進捗報告 -天ヶ瀬ダム⑤-

◆ モニターツアープラン(好天時)

1) 地域の魅力発掘バスツアー

2) 宇治満喫バスツアー

ターゲット 宇治市内、京都府内在住者

訴求テーマ **地元の魅力満喫プラン**
 これまで行く機会がなかった地元の隠れた名所を巡りながら、自身の暮らしとダムとの関わりを感じていただく。

ツアー行程
 (終日、添乗員同行)
 1115 京阪宇治駅にて集合
 1130 **萬福寺 普茶料理**
 1330 天ヶ瀬ダム見学
 ★キャットウォーク等特別見学
 ★試験放流見学
 15:00 **川下り体験**
 17:00 京阪宇治駅にて解散

ターゲット 京都府外、近畿圏内在住者

訴求テーマ **はじめての宇治観光満喫プラン**
 「天ヶ瀬ダム」を「宇治茶」や「平等院」と並ぶ宇治の観光名物として認識いただく。

ツアー行程
 (終日、添乗員同行)
 1300 京阪宇治駅にて集合
 1330 天ヶ瀬ダム見学
 ★キャットウォーク等特別見学
 ★試験放流見学
 1500 **宇治市営茶室「対鳳庵」お点前体験**
 1600 **平等院鳳凰堂 見学**
 1700 京阪宇治駅にて解散

3. 各モデル地区の進捗報告 -天ヶ瀬ダム⑥-

◆ モニターツアープラン(雨天時)

1) 地域の魅力発掘バスツアー

2) 宇治満喫バスツアー

ターゲット

宇治市内、京都府内在住者

京都府外、近畿圏内在住者

プロモーション

宇治市観光協会のHP及びSNSを利用し、**市内向け**をメインに告知。
市政だより、地元のラジオ「FMうじ」にて広報も可能。

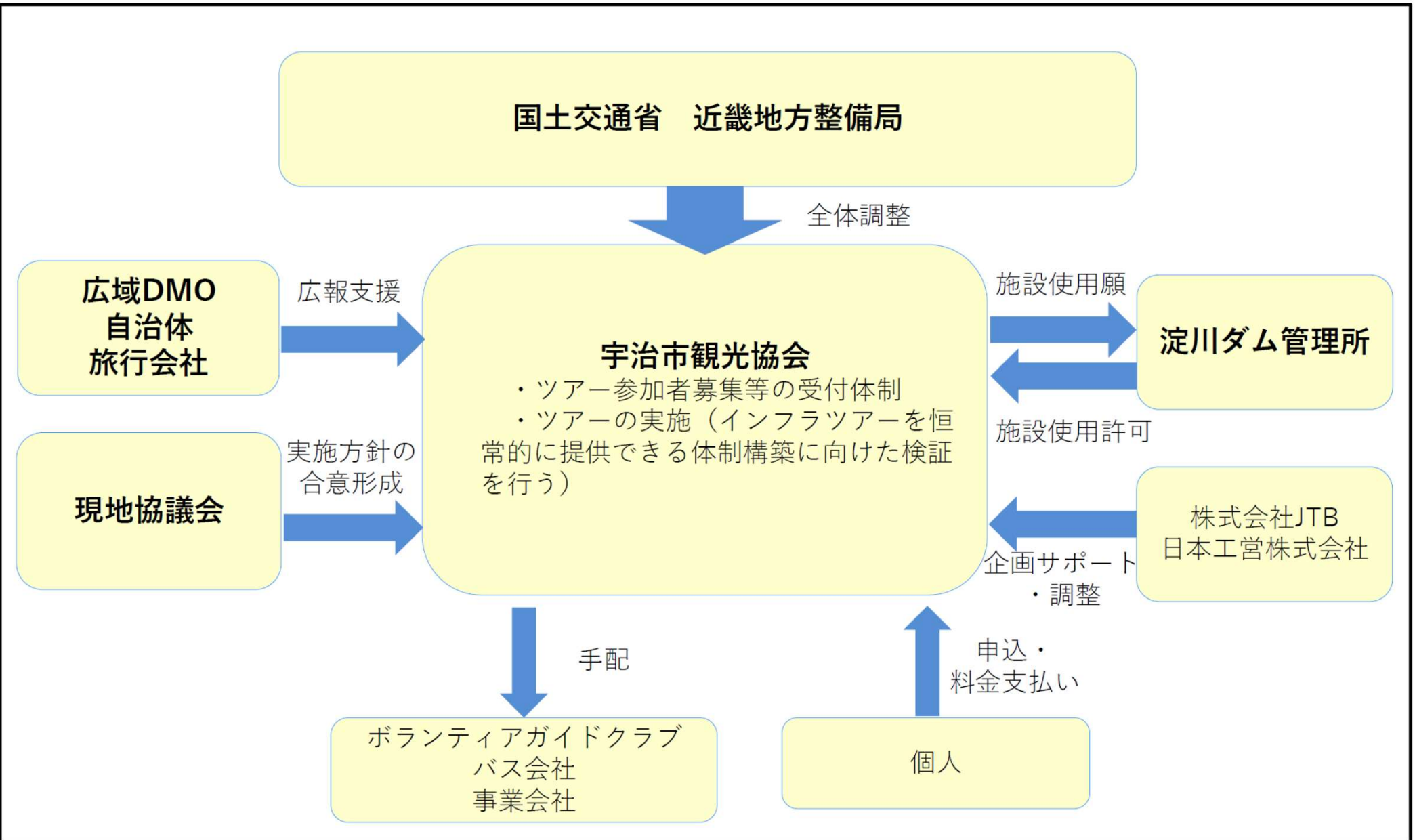
宇治市観光協会のHP及びSNSで告知のほか、**市外・府外**を想定したより**広域**への告知については、**DMO・京都府観光連盟**に協力を仰ぎ、加えて**旅行会社**も利用し広報範囲を広げる。

雨天時の
ダム施設内
特別体験

- ・横坑
- ・管理事務所屋上からの見学

3. 各モデル地区の進捗報告 -天ヶ瀬ダム⑦-

◆ モニターツアーの実施体制



3. 各モデル地区の進捗報告 -天ヶ瀬ダム⑧-

◆第2回協議会意見要旨

- 宇治市には観光ボランティアクラブがあるため、土日であってもガイドの確保は行いやすいが、ダムの特別体験には職員対応が必要なため限られた日数を最大限活用したい。
- 雨天時のキャットウォーク等に代わる代替コンテンツについては重要なポイントである。ただ珍しいだけでなく、エンターテインメント性があるなど魅力があるものでないといけない。
- 宇治市周辺などダムの恩恵を受けている方もターゲットになるのではないか。
- マイクロツーリズムの観点で、「地域を深く知る」ことが注目されている。宇治を知るきっかけはこれまで寺社やお茶だったが、そこにダムが新たな切り口として加わっていくとよい。
- インフラツーリズムの中での他地域との差別化も必要である。
- 広報については、「早く」「太く」「広く」の観点で様々な方法を試した方がよい。



◆モニターツアーへの反映、今後の自走に向けた取組(案)

- ① 宇治市観光協会を実施主体としたモニターツアー内容の設定、販売、宣伝の実施・検証
- ② 地域とのつながりを踏まえた連携コンテンツの検討
- ③ 雨天時の代替コンテンツについての検討、参加者の評価検証

3. 各モデル地区の進捗報告 -天ヶ瀬ダム⑧-

◆令和2年度成果を踏まえた今後の検討事項

検討① インフラ施設見学の深度化	<ul style="list-style-type: none"> • キャットウォーク体験、点検放流見学をメインコンテンツとしつつ、雨天時の代替コンテンツを検討
検討② 地域の観光資源と連携したコンテンツ検討	<ul style="list-style-type: none"> • ダムと周辺地域とのつながりを深く知ることができるストーリーの検討
検討③ インフラツーリズムの運営体制構築	<ul style="list-style-type: none"> • 宇治市観光協会を中心としたツアー造成、販売体制の構築 • 点検放流やキャットウォーク体験の実施可能日が限られることへの対応
検討④ インフラツーリズムの実践	<ul style="list-style-type: none"> • SNSや旅行会社での販売なども活用した、ターゲットを踏まえた幅広い広報方法の検討



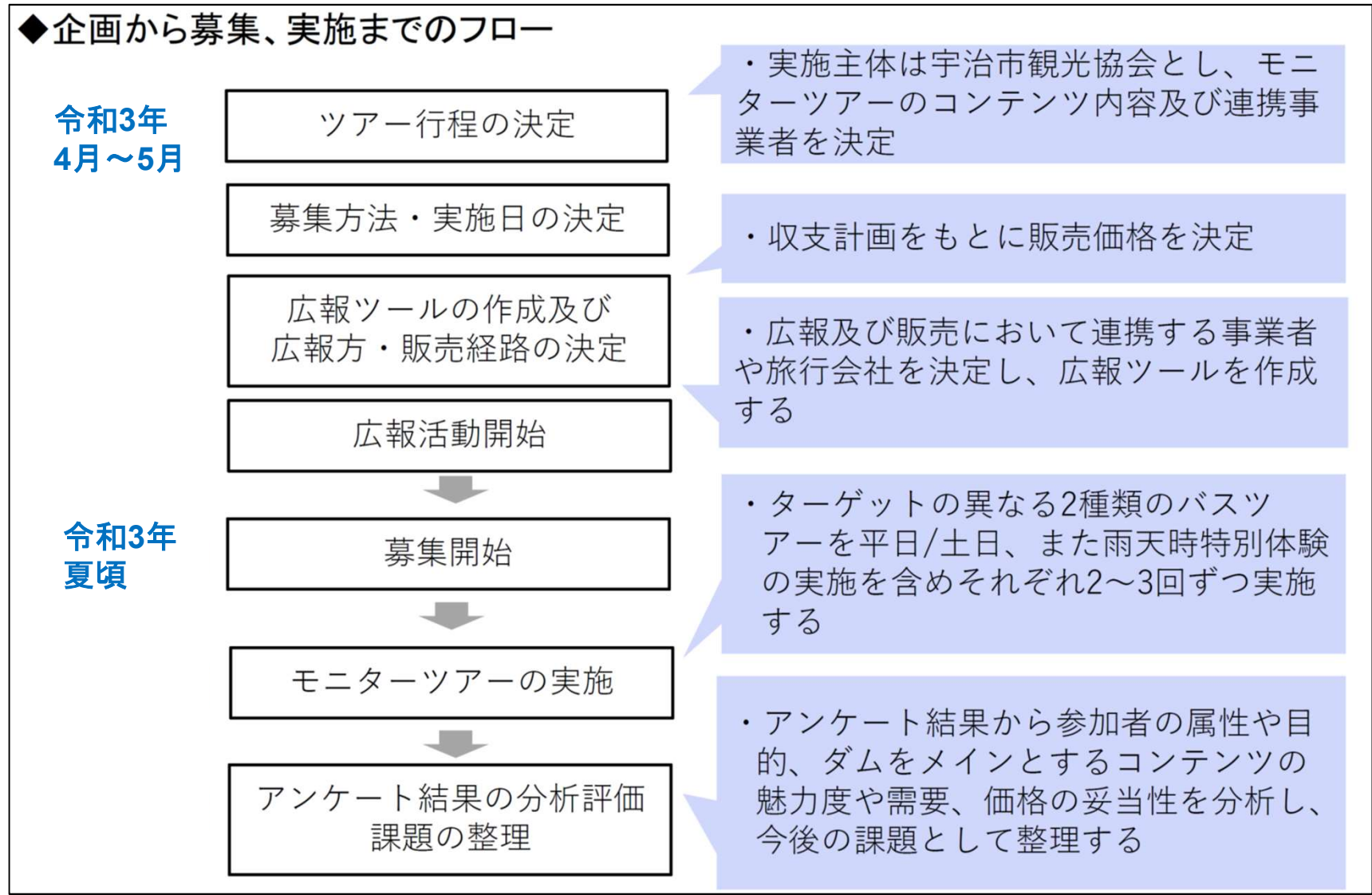
◆令和3年度の事業内容

①モニターツアーの実施	<ul style="list-style-type: none"> • 天ヶ瀬ダムと組み合わせるコンテンツや、雨天時の代替コンテンツの満足度、収支計画などについて検証
②ストーリーの具体化	<ul style="list-style-type: none"> • 宇治市内だけでなく、琵琶湖からの流域全体を見渡した地域について深く知れるストーリーやコンテンツの検討
③運営体制構築	<ul style="list-style-type: none"> • 宇治市観光協会を中心とした、自走可能な運営体制の構築
④販売、PR方法の検討	<ul style="list-style-type: none"> • 幅広い広報チャンネルの検討

3. 各モデル地区の進捗報告 -天ヶ瀬ダム⑨-

◆天ヶ瀬ダムにおける今後の事業実施方針

- 令和3年夏頃にモニターツアーを実施することを念頭に、ツアー行程や収支計画、広報について検討する。令和3年6月頃の募集開始を想定する。



3. 各モデル地区の進捗報告 -来島海峡大橋①-

◆令和元年度成果を踏まえた今後の検討事項

検討① インフラ施設見学の深度化	<ul style="list-style-type: none"> • 地元の人材や県OBも含めたガイド人材の確保
検討② 地域の観光資源と連携したコンテンツ検討	—
検討③ インフラツーリズムの運営体制構築	<ul style="list-style-type: none"> • 「お金の流れ」も含めたツアー等の運営体制の構築
検討④ インフラツーリズムの実践	<ul style="list-style-type: none"> • プロモーションや販売ルートの検討

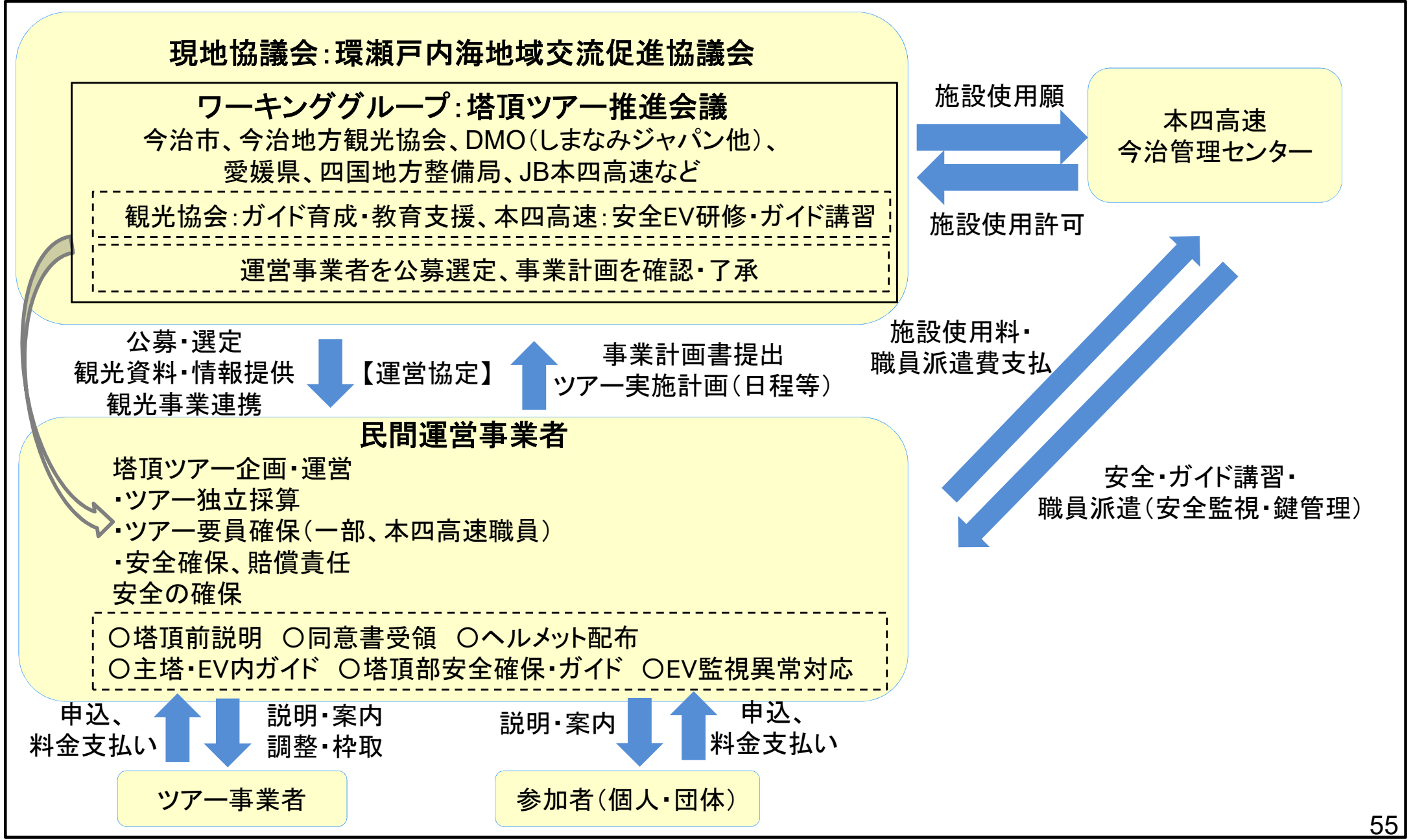


◆令和2年度の事業内容

①運営体制の構築	<ul style="list-style-type: none"> • 地元観光事業者:ガイド・船あり。主塔の管理上5名同行必要 • 地元観光事業者に運営を委託するための協議会等の構築 • 業者選定の手続き
②周辺地域と連携したガイドストーリーの構築	<ul style="list-style-type: none"> • 地元観光事業者での運営を前提に観潮見学等を含む周辺観光資源と連携したストーリーの検討
③ツアー商品造成・実証	<ul style="list-style-type: none"> • 秋以降実施に向けて本四高速・四国地整でスケジュール調整中

3. 各モデル地区の進捗報告 -来島海峡大橋②-

◆ 運営スキーム(案)



3. 各モデル地区の進捗報告 -来島海峡大橋③-

◆ 検証ツアーの実施

- 橋の管理者である本州四国連絡高速道路株式会社が独自に4つの検証ツアーを実施し、各ツアーより安全面、運営面、コスト面での課題を抽出することができた。

①サイクリング、塔頂ツアー、桁外面作業車を絡めたツアー

○概要
糸山サイクリングターミナルより、E-bikeで亀老山までのサイクリングツアーに来島海峡大橋の塔頂ツアーだけではなく、桁外面作業車の体験を含めたツアー。塔頂ツアー等の時間短縮のため、これまでの塔基部からではなく、自歩道の高さの道路階主塔入口を使用。

○実施方法
愛媛県と連携し、サイクリングガイド等をメンバーとするツアーを実施し課題検証を行う。

○課題
・道路階からのアクセス及び桁外作業車搭乗経路の安全確保及び円滑な運営
・コスト

○試行実施状況

- ① 9月 4日(金) 9:00～16:00 参加モニター15名
- ② 10月 4日(日) 9:00～14:00 参加モニター23名
※愛媛県事業「サイクルガイドツアー帯同研修運営」
- ③ 10月25日(日) 9:30～12:40 参加者 70名
※愛媛県事業「令和2年度愛媛県自転車新文化推進協会サイクリング」
- ④ 11月17日(火) 15:00～16:30 参加モニター3名
※愛媛県事業「地域スポーツ資源を活用したインバウンド拡大のためのモデル事業」
- ⑤ 3月 1日(月) 10:00～11:30 参加者 45名
※愛媛県事業「しまなみ海道魅力向上事業 しまなみオンラインツアー(塔頂体験映像利用)」

○今後の予定
3月中旬を目処に円滑運営及び実施安全対策のとりまとめ及びツアーガイド(案)作成を行う。



3. 各モデル地区の進捗報告 -来島海峡大橋④-

◆ 検証ツアーの実施

② 夕日眺望とカメラマンレッスンツアー

○概要

少人数による、プロカメラマン撮影指導の下、しまなみ海道の特別な景観撮影を堪能するプラン。プロカメラマン指導によるしまなみ海道フォトスポットの撮影及び「夕日ストライク」に代表される来島海峡大橋塔頂からの夕日眺望撮影。オプションとして馬島からの星空撮影、朝日撮影なども検討。現地レッスン終了時に、SAでのプロカメラマンとの講習会も開催検討。

○実施方法

今治地方観光協会と連携し、カメラマン写真講師（竹國 照顕氏）同行ツアー（10名程度）を実施し、課題検証を行った。

○課題

- ・夕刻薄暮での塔頂へのアクセス及びカメラ台設置等安全確保及び円滑な運営
- ・コスト

○試行実施状況

11月20～21日 9:00～21:00 1泊2日 来島塔頂は20日16:00～18:00 参加モニター10名

○今後の予定

3月中旬を目処に円滑運営及び実施安全対策のとりまとめを行う



撮影の様子



日没後の来島海峡大橋

3. 各モデル地区の進捗報告 -来島海峡大橋⑤-

◆ 検証ツアーの実施

③ guntūと潮流体験と塔頂ツアー

○概要

「せとうちの海に浮かぶ、ちいさな宿」がコンセプトの客船「ガンツウ」の、尾道を中心にとびしま海道、しまなみ海道、鞆の浦というルートの船外体験に「潮流体験」との「来島海峡大橋塔頂ツアー」を組み込み村上海賊が支配していた海域を海からだけではなく、来島海峡大橋の上から俯瞰していただくツアー。

○実施内容

ベラヴィスタリゾート及び(株)しまなみと連携し、guntūポンツーンに(株)しまなみ潮流船を接岸乗り換え、来島海峡潮流体験(1時間程度及び来島海峡大橋塔頂体験を実施し、課題の検証を行った。

○課題

- ・塔頂アクセスの安全確保及び潮流体験と連動した円滑な運営
- ・コスト

○試行実施状況

10月16日(金) 14:30～潮流体験15:20～来島海峡大橋塔頂 (15名)

11月11日(水) 14:30～潮流体験15:30～来島海峡大橋塔頂+馬島EVから自歩道 (22名)

3月 3日(水) 14:30～潮流体験15:30～来島海峡大橋塔頂+馬島EVから自歩道 (20名)

○今後の予定

3月中旬を目処に円滑運営及び実施安全対策のとりまとめを行う



ラグジュアリー客船「guntū」



潮流体験

塔頂体験



3. 各モデル地区の進捗報告 -来島海峡大橋⑥-

◆ 検証ツアーの実施

④フォトウェディング等塔頂貸切プラン

○概要

「個人メモリアルイベント」を応援する貸切塔頂プランで、塔頂でのフォトウェディング等の試行を実施。しまなみJAPAN企画「しまなみ絶景ウェディング」と連携し、しまなみ海道のフォトスポット及びクルーズと組み合わせたフォトウェディングを実施。

○実施方法

しまなみJAPAN及びWAKKAと連携し、新婚（尾道市在住 8月入籍）のモニターに協力いただき、来島海峡大橋塔頂及びクルーズを含むしまなみ海道フォトスポットでの撮影を実施。

撮影についてはドローンも使用し課題の検証を行った。

○課題

- ・ 正装での塔頂アクセス撮影の安全確保、ドローン使用での安全性の確保及び円滑な運営
- ・ コスト

○試行実施状況

11月9日(月)9:00~17:00

- ・ 来島海峡大橋塔頂での撮影・チャータークルーズでの多々羅大橋潜橋撮影
- ・ Wakka施設でのサンセットフォト撮影

○今後の予定

3月中旬を目処に円滑運営及び実施安全対策のとりまとめを行う



来島海峡大橋での撮影



多々羅大橋潜橋クルーズ撮影



Wakka施設エリアでの撮影

3. 各モデル地区の進捗報告 -来島海峡大橋⑦-

◆ マーケットサウンディングの実施

- ツアーの実施主体を民間事業者へ委託することを念頭に、本四高速において令和3年1月に民間事業者へのマーケットサウンディングを実施した。
- 10社が参加し、当地域におけるツアーは事業性があると回答があった。

10社が事業性があると回答、うち4社は条件次第で事業性があると回答している

ア 事業性がある			
イ スキーム・条件次第では事業性がある			
ウ 事業性が乏しい			
エ 現時点では判断できない			

ア	イ	ウ	エ
6	4	0	0

行程の事業性

■ア ■イ ■ウ ■エ

②事業者としての関心度

9社が興味・関心があるが、残る1社は条件次第での興味・関心にとどまり、現時点では判断できないと回答

ア 興味・関心がある			
イ スキーム・条件次第では興味・関心がある			
ウ 興味・関心がない			
エ 現時点では判断できない			

ア	イ	ウ	エ
8	1	0	1

事業者としての関心度

■ア ■イ ■ウ ■エ

3. 各モデル地区の進捗報告 -来島海峡大橋⑧-

◆ 実施スケジュール

	2020年度									2021年度								
	7	8	9	10	11	12	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
推進会議						●設立												
ガイド研修(県OB) (モデル事業のガイド確保)	募集																	
ガイド研修																		
ガイドマニュアル作成																		
エレベーター安全対策																		
マーケットサウンディング																		
モデル事業の公募																		
モデル事業の実施																		

3. 各モデル地区の進捗報告 -来島海峡大橋⑨-

◆令和2年度成果を踏まえた今後の検討事項

<p>検討① インフラ施設見学の深度化</p>	<ul style="list-style-type: none"> 主塔塔頂及び桁外作業車への乗車体験をメインとしたコンテンツの安全な実施のための検討 安全確保策の検討、県OBなどへガイド研修の継続実施
<p>検討② 地域の観光資源と連携したコンテンツ検討</p>	<ul style="list-style-type: none"> 馬島など周辺地域との連携や、村上水軍などのコンテンツとの連携の具体化 サイクリング、マリンスポーツ等のアクティビティとの連携検討
<p>検討③ インフラツーリズムの運営体制構築</p>	<ul style="list-style-type: none"> 本四高速から民間事業者への委託のための公募を見据えたマーケットサウンディングの結果を踏まえた公募条件の設定
<p>検討④ インフラツーリズムの実践</p>	<ul style="list-style-type: none"> SNSなども活用した、ターゲットを踏まえた幅広い広報方法の検討



◆令和3年度の事業内容

<p>①モニターツアーの実施</p>	<ul style="list-style-type: none"> 安全面を考慮した塔頂ツアー及び桁外作業車体験の人員配置や、満足度の高い見学内容、収支計画などについて検証
<p>②地域と連携したプランの検討</p>	<ul style="list-style-type: none"> ターゲットを想定し、プレミアムプランやアクティビティプラン、村上水軍をテーマとしたなど、多様なプラン内容を検討
<p>③運営体制構築</p>	<ul style="list-style-type: none"> 民間事業者によるツアー運営体制の構築に向けた、公募要件の検討、公募・選定
<p>④販売、PR方法の検討</p>	<ul style="list-style-type: none"> 民間事業者の強みを生かした幅広い広報チャンネルの検討

3. 各モデル地区の進捗報告 -来島海峡大橋⑩-

◆来島海峡大橋における今後の事業実施方針

- 民間事業者による自走化を見据えたモニターツアーの実施に向けて、令和2年度に実施したマーケットサウンディング調査を踏まえて本四高速において事業者公募を実施。
- 令和3年秋頃にモデル事業のよるツアーを実施することを念頭に、ツアー行程や収支計画、広報について民間事業者の決定を踏まえて検討する。
- モニターツアーを踏まえて、安全性の確保された満足度の高い見学内容や組み合わせるコンテンツ、自治体や地域事業者との連携方についてを精査する。

3. 各モデル地区の進捗報告 -鶴田ダム①-

◆令和元年度成果を踏まえた今後の検討事項

検討① インフラ施設見学の深度化	<ul style="list-style-type: none"> インフラ施設見学の詳細検討、民間事業者への委託も見据えた運営体制の検討
検討② 地域の観光資源と連携したコンテンツ検討	<ul style="list-style-type: none"> 地域の観光資源との連携について、具体的な連携のプログラムを検討
検討③ インフラツーリズムの運営体制構築	<ul style="list-style-type: none"> 「お金の流れ」も含めたツアー等の運営体制の構築
検討④ インフラツーリズムの実践	<ul style="list-style-type: none"> プロモーションや販売ルートの検討

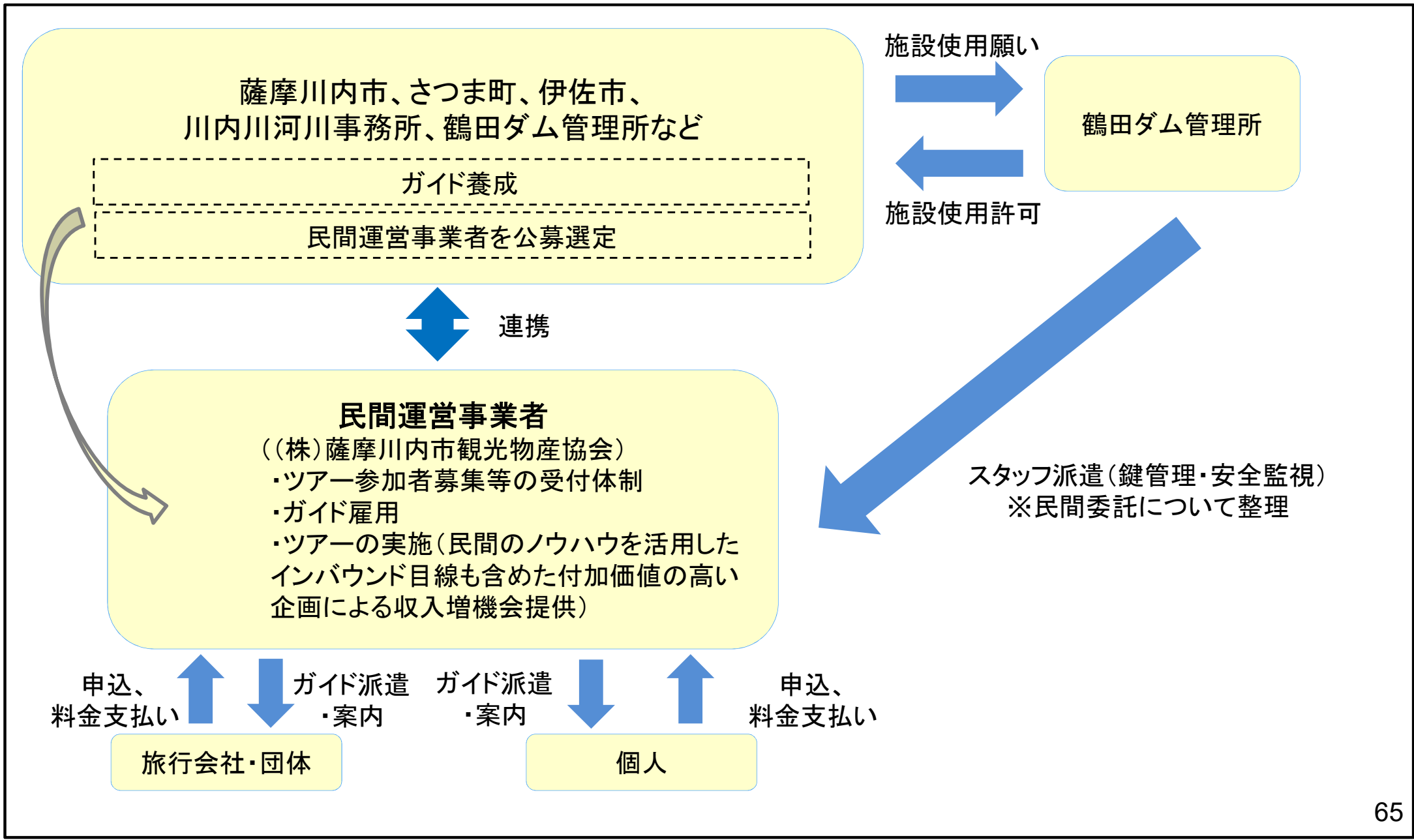


◆令和2年度の事業内容

①運営体制の構築	<ul style="list-style-type: none"> 川内川水系かわまちづくり観光振興部会と連携し、運営体制を確立する
②周辺地域と連携したガイドストーリーの構築	<ul style="list-style-type: none"> 管理事務所に勤務するコンシェルジュの活用、連携も検討
③ツアー商品造成・実証	<ul style="list-style-type: none"> 通年で実施している見学との差別化、土日対応などの検討
④パンフレットの活用による認知拡大方策検討	<ul style="list-style-type: none"> 新たに作成したインフラツーリズムのパンフレットの活用の方策の検討

3. 各モデル地区の進捗報告 -鶴田ダム②-

◆運営スキーム(案)



3. 各モデル地区の進捗報告 -鶴田ダム③-

◆ 現地協議会

<構成員>

既存組織：川内川水系かわまちづくり観光振興部会

鹿児島県、宮崎県、薩摩川内市、さつま町、伊佐市、湧水町、えびの市、
川内川河川事務所、鶴田ダム管理所

その他連携団体：(株)薩摩川内市観光物産協会、NPO法人ひっ翔べ！奥さつま探検隊、
NPO法人バイオマスワークあったらし会、NPO法人水と地球

<第3回協議会(鶴田ダムインフラツーリズムに関する情報交換会)>

○日 時：令和3年2月16日 14:00～15:30

○場 所：さつま町役場

○参加機関：薩摩川内市、さつま町、伊佐市、薩摩川内市観光物産協会、さつま町観光特
産品協会、伊佐市観光特産協会、宮之城温泉旅館組合、紫尾温泉組合、電源
開発株式会社、川内川河川事務所、鶴田ダム管理所)

○議 事：

- (1) インフラツーリズム魅力倍増プロジェクトの取り組みについて
- (2) 鶴田ダムのこれまでの取り組み
- (3) 関係機関のツーリズム取り組み(各市町)
- (4) 鶴田ダムの今後の取り組み(鶴田ダム)
- (5) その他

3. 各モデル地区の進捗報告 -鶴田ダム④-

◆ モニターツアーの実施

○令和2年11月28、29日に、鶴田ダムとダム周辺の観光資源をタイアップした「鶴田ダムインフラツアー」が実施(20名参加)され、放流状況やダム内部の施設見学など、普段見ることができない体験だったなど大変好評であった。

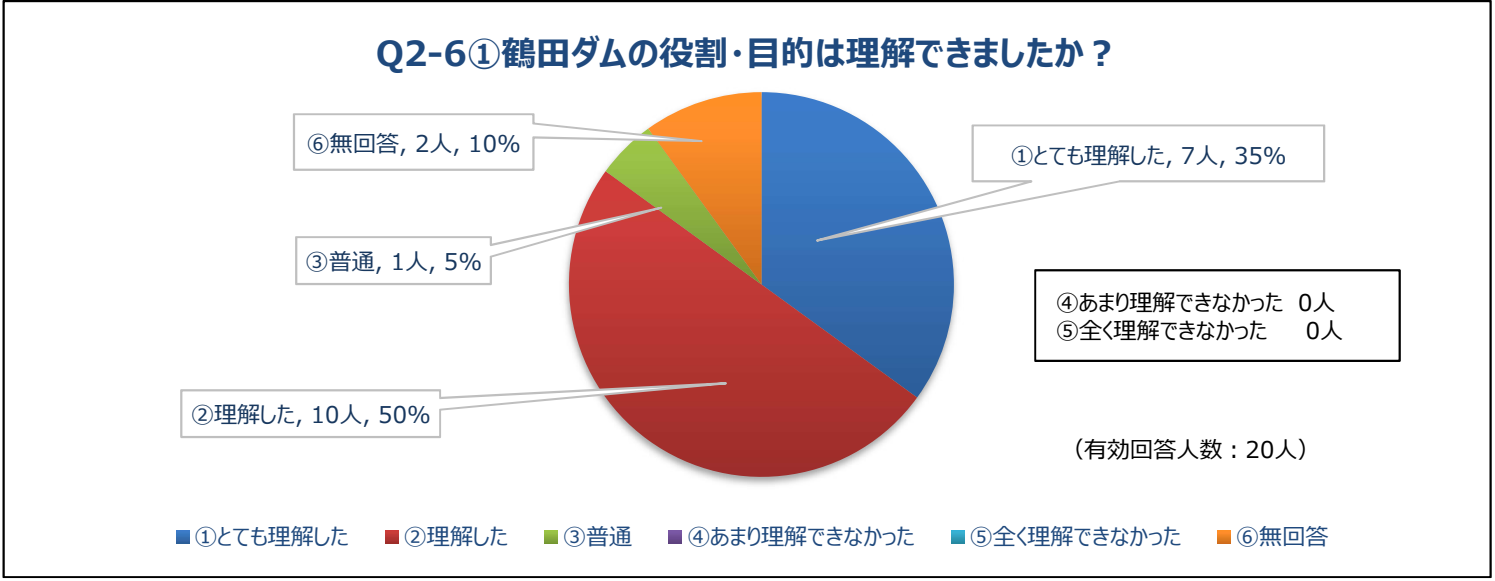
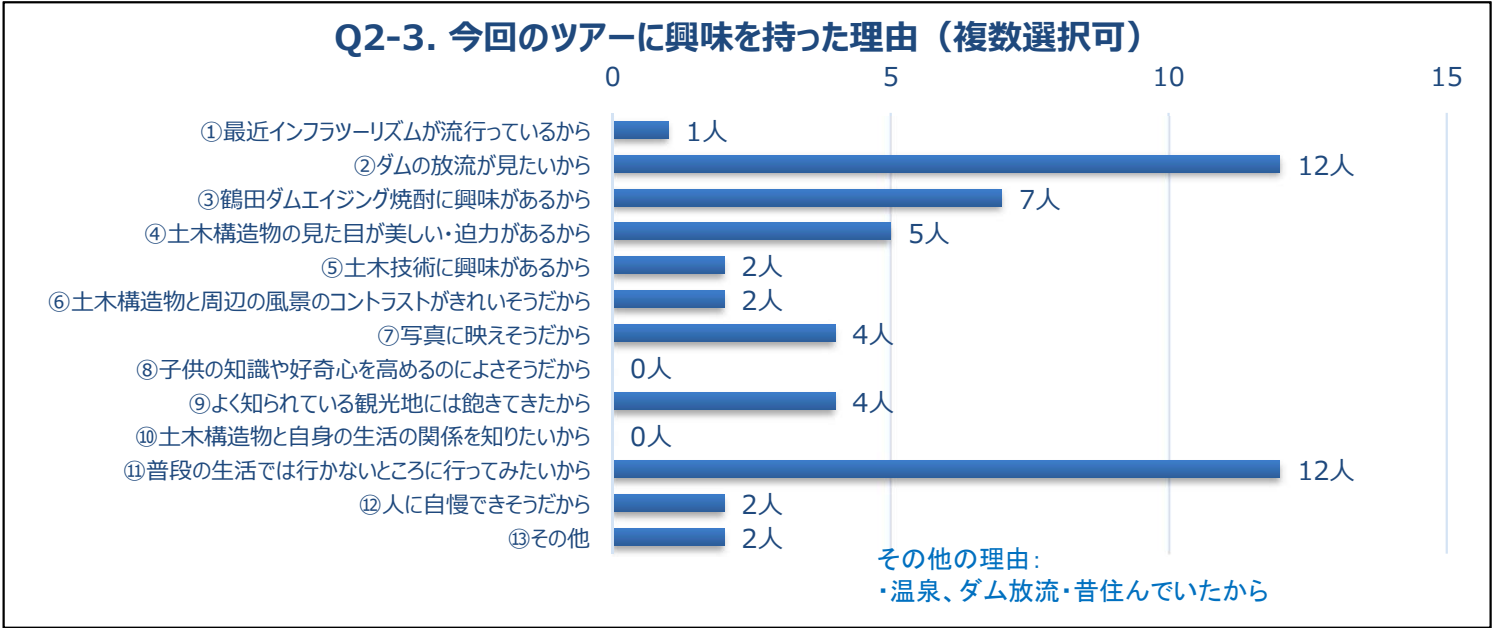
販売価格 1名あたり35,800円

※Gotoキャンペーン対象35%給付後の価格



3. 各モデル地区の進捗報告 -鶴田ダム⑤-

◆ モニターツアーの実施結果



3. 各モデル地区の進捗報告 -鶴田ダム⑥-

◆ 団体向けツアー

企画設定	内容	企画の実現に向けた動き	反応や対応状況、実現性・課題など	スピード
<p>①小中学生に向けた教育旅行(修学旅行、社会科見学、少年自然の家)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・子供たちが自然災害や治水に興味を持ち、インフラの大切さを認識する新しいプログラム ・ペーパークラフトによる鶴田ダム模型の作製体験 ・ダムレンジャーによる操作室での説明やダムレンジャーの要所配備 ・ダム模型によるわかりやすい機能の説明 	<ul style="list-style-type: none"> ・社会科見学等の場所の決定権は校長先生 ・各学校すべてに行き届くよう市、町の教育委員会へ打診し修学旅行や社会科見学で他の見学箇所とセットで当ダムへの見学を実施いただくよう依頼 ※修学旅行の活用についての動きは未(他県) 	<ul style="list-style-type: none"> ・川内川流域の各教育委員会へ確認したところ委員会から各校長へ案内するよりもチラシ等を添え直接各校長へ案内を出してもらっていい ・その際、委員会へも案内した旨を周知してほしい ・単なるダム見学で終わらせるのではなく防災意識の向上やダムの役割、仕組みなど防災教育の一環として活用するよう誘導 ・次年度以降も継続的に実施(5年or6年生) 	<p>R-3以降</p>
<p>②高齢者・障がい者に向けたバリアフリーツアー</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・急で長い階段の昇降など従前のツアー内容を見直し高齢者や障害者にとって新しいインフラ観光。優しいダム観光を提案 ・手摺りや昇降の緩和のためのハード面の整備(将来) 	<ul style="list-style-type: none"> ・社会福祉協議会や自治体職員の意見等を聴取しバリアフリーのための具体案を検討する ・社会福祉協議会と意見交換会を開催(R2.1.23) ・ハード整備のための予算化が必要 	<ul style="list-style-type: none"> ・具体の整備すべき内容の方向性が決まり次第予算化の方策を議論 	<p>R-3以降</p>

3. 各モデル地区の進捗報告 -鶴田ダム⑦-

企画設定	内容	企画の実現に向けた動き	反応や対応状況、実現性・課題など	スピード
③旅行会社とタイアップした鶴田ダムインフラツアーの受け入れ	<ul style="list-style-type: none"> ・旅行会社と連携するとともに企画するツアー受け入れ体制の早期化、充実化 	<ul style="list-style-type: none"> ・R2年度は、(株)薩摩川内市観光物産協会が「団体⑥焼酎タイムカプセルツアー」+「個人④点検放流」を組み合わせたツアーを開催(R2.11.28-29) ・ツアー参加者に、「ダムレンジャーのジャンパー」及び「ダムのカケラ」を特典として配布 ・焼酎貯蔵は、ダム見学の記念として好評 ・点検放流は、普段立ち入れない箇所へ案内し、放流の水しぶきを浴びる等の特別感を演出し好評 	<ul style="list-style-type: none"> ・R2年度に実施したツアー内容等を各市町の観光協会等へ周知し、ツアーの拡充に向け協議していく 	R-2
④ダム建設、治水技術を学ぶテクニカルビジット(技術視察)	<ul style="list-style-type: none"> ・国内外の土木技術者に向けたダム再開発技術や治水技術等を近隣事務所とも連携しわかりやすく発信する専門性の高いツアーの企画 	<ul style="list-style-type: none"> ・ダム再開発事業の河川激特事業の概要を記載したパンフレットの見直し 	<ul style="list-style-type: none"> ・担当した技術者との意見交換会を実施し、パンフレットの見直しを行う。 	R-3以降
⑤ダムマニア満足ツアー	<ul style="list-style-type: none"> ・ダムマニアの要望に応える満足度の高いツアーの企画 	<ul style="list-style-type: none"> ・ダムマニアや、大人の社会科見学などを主宰する方々にダムを見学してもらいマニアが期待、喜ぶツアー内容を検討 ・ダムマニアによる講演会を開催(R2.1.27) ・ダムマニアと意見交換会を開催(R2.1.28) 	<ul style="list-style-type: none"> ・R3年度に再度ダムマニアとの意見交換会を実施し、ダムマニアが期待する案内ルートの設定を行う。 ・ダムマニアが期待する案内ルート設定 	R-3以降
⑥焼酎貯蔵タイムカプセルツアー	<ul style="list-style-type: none"> ・地元の焼酎蔵元と連携し記念日まで焼酎を貯蔵する企画 ・貯蔵日を決めダム見学と合わせて実施 	<ul style="list-style-type: none"> ・さつま町特産品協会とさつま町と協定書を締結 ・R2年7月受付開始し、9月より試行的に貯蔵開始。 	<ul style="list-style-type: none"> ・81本(R2年12月現在)を貯蔵済。 ・「都市・地域再生等利用区域」制度(特区)を申請し認定を得る。 	R-3

: 令和2年度インフラツアーで組合せ実施

: 令和2年11月より実施

3. 各モデル地区の進捗報告 -鶴田ダム⑧-

◆ 個人向けツアー

企画設定	内容	企画の実現に向けた動き	反応や対応状況、実現性・課題など	スピード
①近隣温泉施設の宿泊プランと鶴田ダム見学をパッケージした特別プログラム	<ul style="list-style-type: none"> 自治体の観光部局や温泉協会と連携しダム見学を目的とした宿泊プランを造成 普段は立ち入れない施設への案内などプレミアム企画 	<ul style="list-style-type: none"> 宮之城、紫尾温泉旅館組合と協議 さつま町内宿泊施設との連携 	<ul style="list-style-type: none"> R3年度に期間、宿泊施設やプレミアム感をどう打ち出していくか協議していく。 	R-3以降
②1名からでも受け入れ可能な満足度の高い個人客受け入れツアー	<ul style="list-style-type: none"> 完全予約制のダムコンシェルジュによる案内 見学時間は60分、90分から選択 コースは時間に見合った選択が可能 時間によってはJパワー発電室も見学 	<ul style="list-style-type: none"> 現状のダム見学のあり方(コース等)を充実 ガイド教本の作成し、監査廊内パネルを更新 ダムレンジャーの活用に向けた取り組み 	<ul style="list-style-type: none"> R2年度は、新型コロナ感染拡大防止のため、案内ルートの変更や受入れ人数を制限し申込受付を再開(R2年11月) ダムコンシェルジュガイド教本を作成済 監査廊内パネルを更新し設置済 	R-2
③鶴田ダム大鶴湖遊覧船の期間限定特別運行	<ul style="list-style-type: none"> NPOが所有する船を利用した遊覧ツアーの検討 接岸施設の整備による運行の拡大を検討 	<ul style="list-style-type: none"> 曾木発電所遺構上流の広場を活用した接岸施設整備の検討 	<ul style="list-style-type: none"> 接岸施設を設計中 ダム貯水位が低い場合は運行できない。 	R-4以降

3. 各モデル地区の進捗報告 -鶴田ダム⑨-

企画設定	内容	企画の実現に向けた動き	反応や対応状況、実現性・課題など	スピード
④点検放流の実施	<ul style="list-style-type: none"> ・毎年11月に点検放流を実施 ・鶴田ダムを通じた地域の風物詩として根付かせ地域のイベントとも連携 	<ul style="list-style-type: none"> ・R1年度初めて点検放流を実施(R1.11.10)し、R2年度も引き続き実施(R2.11.29) ・R1年度は地域イベント(ピクニックマーケット)と連携して実施したが、R2年度はコロナの影響を受け、単独開催。 ・普段立入れない箇所解放 	<ul style="list-style-type: none"> ・R2年度はコロナの影響を受け単独開催となったが、約800名が来場し好評 ・放流量を倍増(80m³/s→150m³/s)し、壮大なスケールを実感 ・事前の周知など集客の工夫 	R-2
⑤水力発電施設の見学と組み合わせたダムの利水見学ツアー	<ul style="list-style-type: none"> ・Jパワー発電所との連携による新たな見学ツアー ・Jパワー非売品グッズの提供などプレミア企画(案) 	<ul style="list-style-type: none"> ・ダム見学と合わせたJパワー第1発電所のタービン室の探検ツアー ・監査廊の中の発電管付近をライトアップ 	<ul style="list-style-type: none"> ・Jパワーと連携し、タービン室の見学コース設定や非売品グッズ提供について協議 	R-3

3. 各モデル地区の進捗報告 -鶴田ダム⑩-

◆第3回協議会意見要旨

- 団体向けプランについては、それぞれの項目の磨き上げの段階に入っている。個人向けプランについては、コロナの影響であまり実行に移せていないため、来年度は事業者や各市町村も巻き込んで具体的に動き出すことが大切。
- 自治体だけで進めるのは難しいので、DMOがいかに力を持てるか、またそれぞれの役割分担を明確にして人材を育ててどう動いていけるかが重要な観点である。
- イベント型の取組は収益を上げていくことが難しいので、どうやって通年型でお客さんを呼べるかを考える必要がある。
- 来年は地域協議会を立ち上げてそのなかでワーキングをつくりながら深堀をしていきたいと思っているので、協力をお願いしたい。



◆今後の自走に向けた取組(案)

- ① 団体向け、個人向けツアー内容のさらなる深度化と実施体制の構築
- ② 民間事業者への委託や収益化を想定した、土日も含めたダムの見学体制の構築

3. 各モデル地区の進捗報告 -鶴田ダム⑪-

◆令和2年度成果を踏まえた今後の検討事項

<p>検討① インフラ施設見学の深度化</p>	<ul style="list-style-type: none"> 地域にとってのダムの重要性が伝わるストーリー(災害、歴史など)の検討
<p>検討② 地域の観光資源と連携したコンテンツ検討</p>	<ul style="list-style-type: none"> 周辺市町村の資源の組み合わせによる広域連携の検討 宿泊や観光コンテンツとの連携による特別感の演出
<p>検討③ インフラツーリズムの運営体制構築</p>	<ul style="list-style-type: none"> 見学ガイドの有料化の検討 関係者の役割分担の検討体制の強化
<p>検討④ インフラツーリズムの実践</p>	<ul style="list-style-type: none"> SNSや旅行会社での販売なども活用した、ターゲットを踏まえた幅広い広報方法の検討



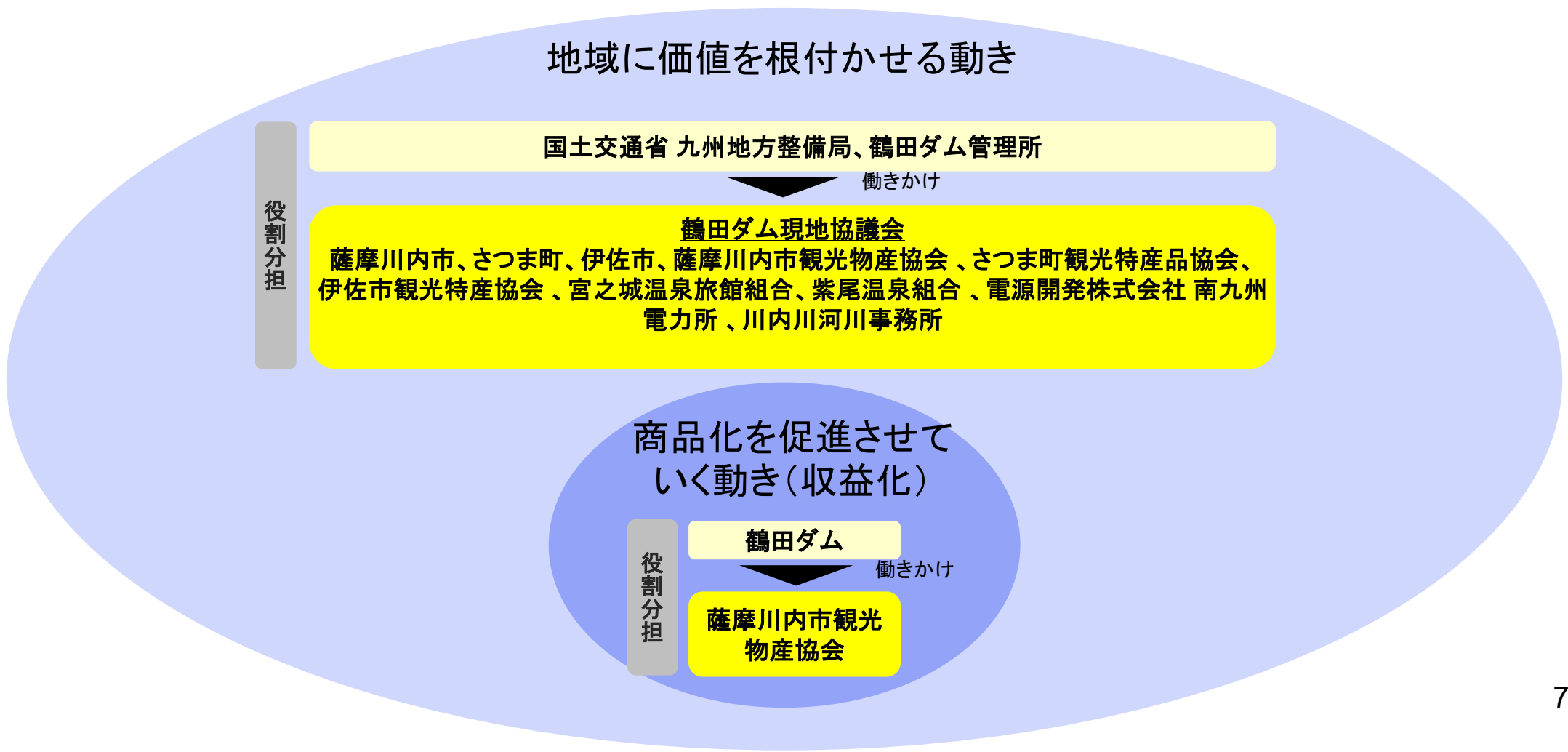
◆令和3年度の事業内容

<p>①さらなる地域資源の深堀、連携方策の検討</p>	<ul style="list-style-type: none"> 地域協議会を立ち上げ、その中でワーキングを作り、さらなる地域資源の深堀、連携方策、体制の検討を行う
<p>②有料見学化の検討</p>	<ul style="list-style-type: none"> 薩摩川内市観光物産協会を実施主体とした個人・団体向け手配型商品の造成・販売を検討
<p>③ツアーの深度化、実施の検討</p>	<ul style="list-style-type: none"> 検討した団体向け・個人向けツアー内容の精査を行い、コロナの状況も踏まえて試行

3. 各モデル地区の進捗報告 -鶴田ダム⑫-

◆鶴田ダムにおける今後の事業実施方針

- 検討したツアーの実施に当たっては、国(鶴田ダム管理所)から鶴田ダム現地協議会に働きかけ、協議会を中心として地域の価値を高める検討を実施する体制を構築。
- 商品化を促進させていく上では薩摩川内市観光物産協会を実施主体とする体制を構築。



2. 各モデル地区の進捗報告 -ハッ場ダム①-

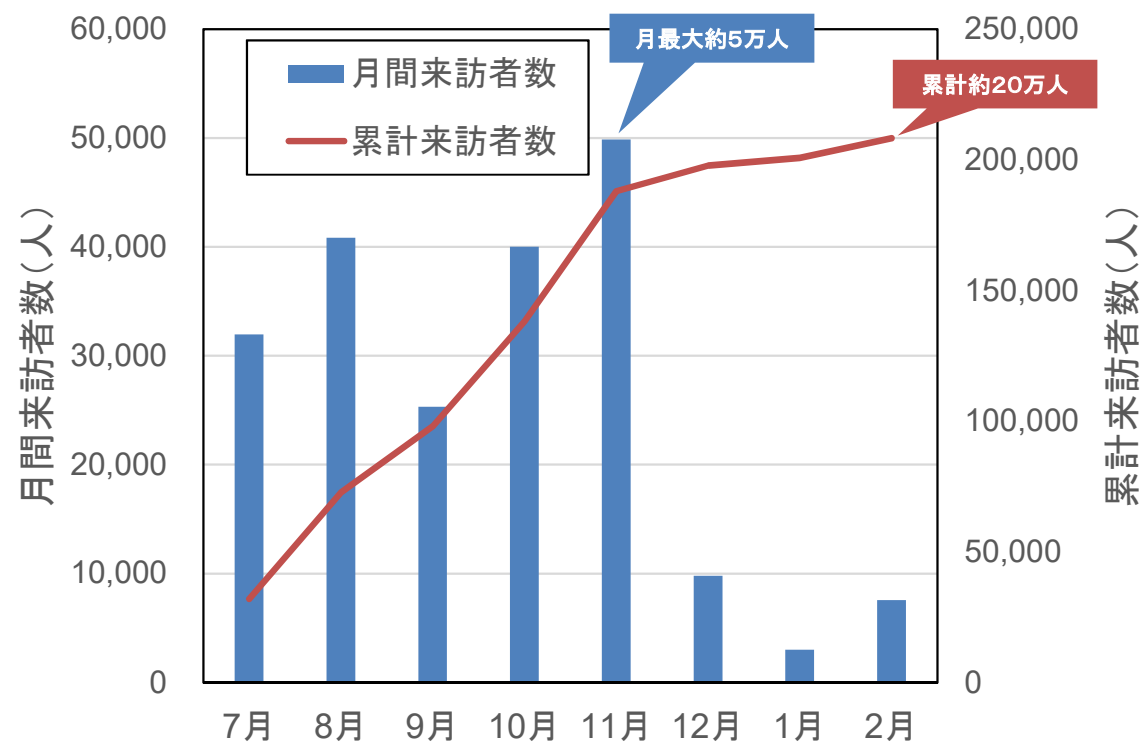
【参考】堤体来訪者の状況等

ハッ場ダムの堤体付近及びダム湖周辺地域では、既存の観光資源や新たに整備した地域振興施設の更なる利活用が求められており、『ハッ場ダム水源地域ビジョン』により、吾妻渓谷や浅間山が育む豊かな自然環境の恵み、魅力ある地域の観光資源、地場産業、ハッ場ダム周辺の様々な施設等を、ダム上下流地域の連携によって総合的に活用し、ハッ場地域全体の自立的・持続的な発展を推進しています。今後も、管理棟やダム堤体等を活用した取り組みを実施していきます。

ハッ場ダム 堤体来訪者数(令和2年7月～令和3年2月)

令和2年7月から一般開放しているハッ場ダム堤体には連日、多くの観光客が訪れており、令和3年2月時点で累計約20万人の方が来訪しました。

ハッ場ダム堤体 来訪者数の推移(令和2年7月～令和3年2月)



利根川水系 ハッ場ダム

群馬県吾妻郡長野原町 左岸天端(管理棟3F)

2. 各モデル地区の進捗報告 -ハツ場ダム②-

【参考】湖面利用の状況

令和2年度は、湖面利用初年度として水陸両用バス、バンジージャンプ、カヌー・カヤック等の利用があった。新型コロナウイルス感染拡大防止の対応及び初期対応等により、利用期間・利用内容は一部に留まっている。

観光船
(令和3年度から運行予定)



イメージ写真

水陸両用バス
(7月～11月営業)



バンジージャンプ
(8月のみ営業)




凡 例	
	湖面の範囲(583m)
	湖面進入路
	網 場
	利用禁止範囲
	進入禁止エリア

※湖面の範囲は平常時最高貯水位(583m)をあらわしているが、流況により水位は変動す

一般利用できる進入路

カヌー・カヤック等
(9月～営業)



2. 各モデル地区の進捗報告 -ハッ場ダム③-

～地元主催の見学ツアー開始～

(一社)つなぐカンパニーながのはら
～住んでいるけど意外に知らない？長野原町のすごいところを再発見しよう！～
第2回 つなカンふるさと再発見企画「ハッ場ダム見学ツアー」

■「ハッ場ダム見学ツアー」が令和2年12月6日に行われました。(長野原町民限定 46名)

前半は「ハッ場ダムを知ろう」ということで、パワーポイントや動画を見て勉強をし、後半はダム本体の見学をしました。



ダム中心部のゲート室では、水が流れ出る轟音と振動を体で感じました。



「スケールが大きくてとても感動した」「貴重な体験をした」「ハッ場ダムは町の宝ですね」という感想をいただきました。

78

3. 各モデル地区の進捗報告 -白鳥大橋①-

◆ 現地協議会

< 構成員 >

室蘭観光推進連絡会

室蘭市、室蘭観光協会、室蘭商工会議所、北海道開発局(オブザーバー)

室蘭観光推進連絡会 白鳥大橋検討WG

室蘭市、室蘭観光協会、室蘭商工会議所、スターマリン株式会社、
まちづくり団体など民間組織、宿泊事業者団体、室蘭市民観光ボランティアガイド協議会

< 第1回協議会 >

○日 時: 令和2年10月30日 10:20~12:20

○場 所: 道の駅みたら室蘭

○議 事:

- (1) プロジェクト全体の取り組みについて
- (2) 白鳥大橋の取り組みについて
- (3) 今年度の取り組みについて
- (4) 意見交換
- (5) 今後のスケジュールについて

3. 各モデル地区の進捗報告 -白鳥大橋②-

◆白鳥大橋におけるインフラツーリズムプロジェクトの全体概要(案)

プロジェクトタイトル	インフラツーリズムで室蘭の歴史・産業・文化を発信【白鳥大橋魅力拡大プロジェクト】
プロジェクト概要	<p>白鳥大橋と地域連携モデルの確立</p> <ul style="list-style-type: none"> ①白鳥大橋見学プログラムの検討 ②白鳥大橋と室蘭市の歴史を結ぶストーリーの検討 ③登別温泉などを含む周辺観光地との連携
事業の柱	<ul style="list-style-type: none"> ①自走化に向けたツアー運営体制の構築 ②白鳥大橋見学プログラムの設定 ③ストーリー性を持った周辺観光資源との連携 ④民間船舶の活用
プロジェクト目標	<p>次年度以降、自走化し、下記のようなツアー商品造成を目指す</p> <ul style="list-style-type: none"> ①「鉄のまち」室蘭の歴史を辿るコースや、夜景が有名な室蘭港などと合わせたフォトジェニックな景観・景勝地を巡るコースの設定。 ②登別温泉などの周辺観光地と連携した周遊コースの検討。

3. 各モデル地区の進捗報告 -白鳥大橋③-

◆白鳥大橋のインフラツーリズムの深度化

概要	白鳥大橋の見学プログラムを実施し、「鉄のまち」室蘭の歴史を辿るコースや、夜景が有名な室蘭港などと合わせたフォトジェニックな景観・景勝地を巡るコースを設定する。地域への観光客誘致と満足度向上を目指す。	
実施項目	<ul style="list-style-type: none"> ・室蘭市内及び周遊観光の促進 ・土日も対応可能なガイドの育成(マニュアルの作成) ・安全性の確保(船舶から施設への上陸方法) 	
ツアー設定案	①「鉄のまち」室蘭の歴史を辿る日本遺産「炭鉄港」ツアー	令和元年に北海道の産業近代化を巡るストーリー。白鳥大橋登頂見学に加え、日本遺産の「炭鉄港」の鉄鋼、鉄道、港を一望し、過去から現在などの変遷等を含めたストーリー。
	②フォトジェニックな景観・景勝地を巡る室蘭港内クルーズツアー	「工場夜景」「室蘭八景」等の観光資源を活用し、これらを巡るクルーズと組み合わせる、アイヌ、縄文文化と室蘭市のつながりをテーマにすることで、ウポポイ(民族共生象徴空間)と連携したツアーを提供する。
	③主塔貸切ツアー(主塔最上部登頂、夜間登頂、フォトウェディング撮影等)	貸切にて、塔頂でのフォトウェディング撮影、夜景撮影等のイベント時の貸切ツアー。
	④管理用階段で登頂するプレミアムツアー	白鳥大橋築島から主塔最上部まで全てを階段で登頂することができる(約500段)

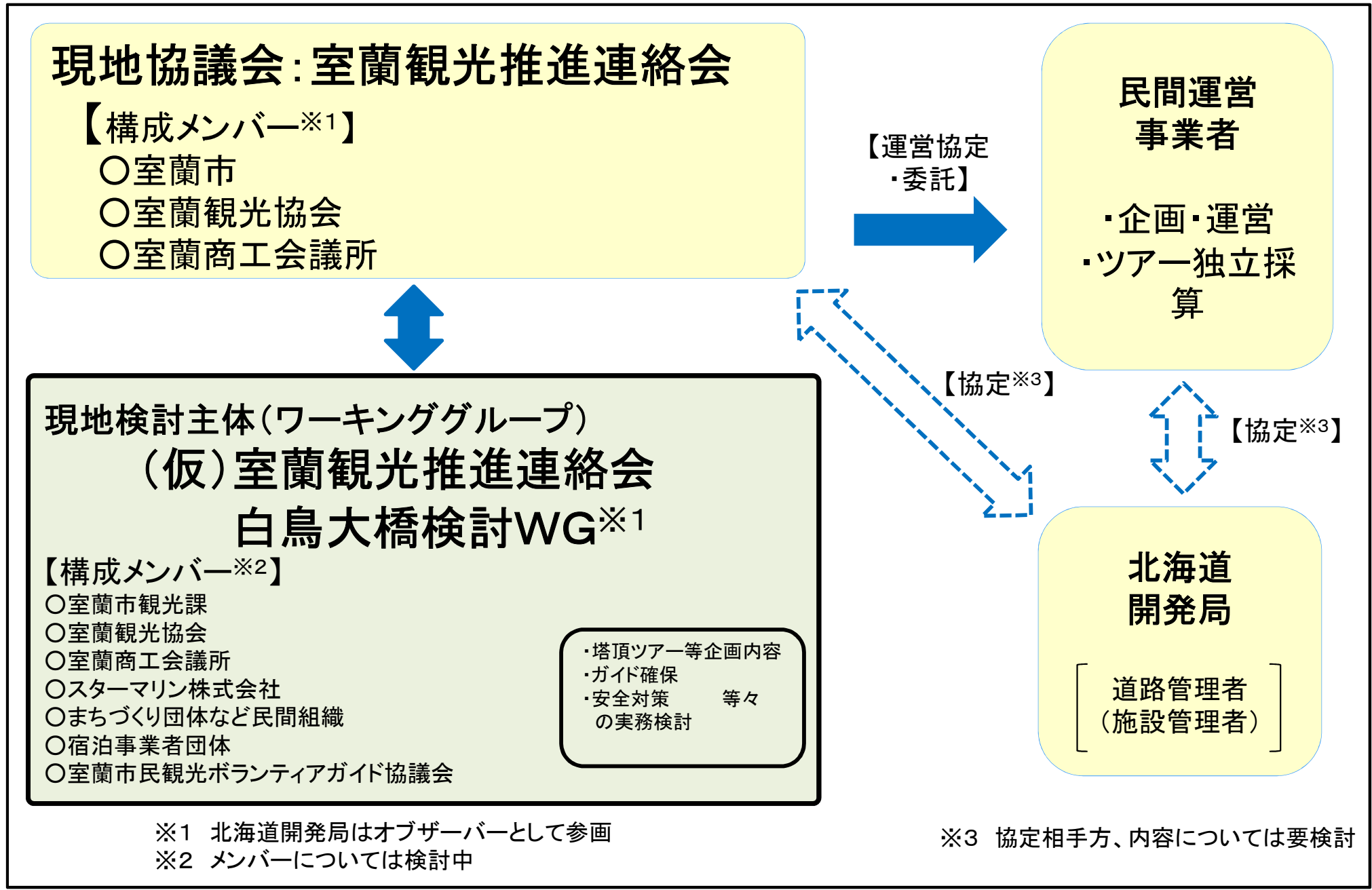
3. 各モデル地区の進捗報告 -白鳥大橋④-

◆周辺地区の観光資源との連携

<p>課題</p>	<p>室蘭観光資源との連携 インフラ施設と室蘭の歴史を結ぶストーリー（周辺地域の観光資源とどう結びつけるか） 施設等受入環境の整備（安全確保） ガイド確保（人員確保・養成）</p>
<p>連携方針</p>	<p>室蘭市を中心に周辺地域観光資源（登別温泉・洞爺湖・ウポポイ）との連携により、魅力的なプログラムを造成し、地域への誘客を図る。</p>
<p>連携イメージ</p>	

3. 各モデル地区の進捗報告 -白鳥大橋⑤-

◆ 運営スキーム(案)



3. 各モデル地区の進捗報告 -白鳥大橋⑥-

◆第1回協議会意見要旨

- 経済効果を生み出せないと地元で進めていくのは困難である。市としても「稼ぐ観光」を目指しているため、単なる地域活性化だけでなく、稼ぐ観光の実現が重要。
- 地域の事業者が稼げるように、地域を巻き込んでいく必要がある。
- 船を使った観光の場合、天候により欠航の可能性もあるので代替案が必要。
- アイデアとして、バンジージャンプやボルダリング、釣りや食事との組合せ、高付加価値のプレミアムプラン、ライトアップなどのメニューが考えられる。
- 夜景は宿泊の促進にもなるので、宿泊事業者とも協議した方がよい。
- 登別や洞爺湖など、周辺地域とも連携が必要である。



◆今後の自走に向けた取組(案)

- ① 白鳥大橋の多様な活用メニューについて検討。
- ② 周辺地域との連携については、市外地域も含めたパッケージを検討。
- ③ 担い手となる地域の実施主体を検討。

3. 各モデル地区の進捗報告 -白鳥大橋⑦-

◆ 現地協議会

< 構成員 >

室蘭観光推進連絡会

室蘭市、室蘭観光協会、室蘭商工会議所、北海道開発局(オブザーバー)

室蘭観光推進連絡会 白鳥大橋検討WG

室蘭市、室蘭観光協会、室蘭商工会議所、スターマリン株式会社、
まちづくり団体など民間組織、宿泊事業者団体、室蘭市民観光ボランティアガイド協議会

< 第2回協議会 >

○日 時: 令和3年3月19日 13:00~15:00

○場 所: WEB

○議 事:

- (1) プロジェクトの今年度の取り組みについて
- (2) 今後の白鳥大橋の商品造成の手順
- (3) 商品造成に先駆けた現地モニターツアーの検討
- (4) ガイドマニュアルについて
- (5) 意見交換

3. 各モデル地区の進捗報告 -白鳥大橋⑧-

◆ モニターツアーの狙い

白鳥大橋インフラツーリズムの自走化に向けて、運営体制の構築、連携体制、周辺地域の観光資源との連携方や見せ方等、自走化に向けた課題点などの抽出を行う。

	コンセプト	柱	ポイント	将来イメージ（出口を意識）
①	<ul style="list-style-type: none"> 北海道内居住者（札幌発着） テーマ：室蘭の鉄 炭鉄港ツアー、ポルタ製作体験や白鳥大橋アンカレイジ見学など特別感がある「学び」と「体験」ができる親子連れやファミリー層向けのツアー内容 ※「教育旅行（探求学習）」としての訴求 	白鳥大橋主塔登頂クルーズ	<ul style="list-style-type: none"> ○白鳥大橋アンカレイジ見学【その他連携先等】 ○地域の観光資源： <ul style="list-style-type: none"> ・ポルタ製作体験 ・炭鉄港（プログラムなし） 	<ul style="list-style-type: none"> ・常時又は期間限定でのツアー販売。 ・地域の観光資源との連携による、室蘭の観光資源としての定番化。（プログラム化） ・宿泊プランやタクシープランなどの商品展開の検討。 ・築島での釣りプランや白鳥大橋をフルコースで周るマニアックプランなどその他活用方法での商品展開の検討。
②	<ul style="list-style-type: none"> 北海道内居住者（札幌発着） テーマ：室蘭の絶景 地球岬クルーズや白鳥大橋主塔登頂などクルージングでの風景鑑賞が主となる、カップル向けのツアー内容 		<ul style="list-style-type: none"> ○地球岬クルーズ 	
③	<ul style="list-style-type: none"> 北海道外居住者（新千歳空港発着） テーマ：カメラ旅 室蘭の歴史を感じる街並みや自然、夜景などの撮影スポットを詰め込んだカメラマニア向けのツアー内容 		<ul style="list-style-type: none"> ○白鳥大橋主塔登頂（夜景）【その他連携先等】 ○宿泊事業者 ○飲食事業者 ○地域の観光資源： <ul style="list-style-type: none"> ・室蘭の街並み散策 ・イルカ・クジラウォッチング 	<ul style="list-style-type: none"> ・室蘭の宿泊者数増加と旅行者の消費拡大による地域活性化への貢献。
④	<ul style="list-style-type: none"> 北海道外居住者（新千歳空港発着） テーマ：北海道の自然 洞爺湖ジオパークでの散策など自然を感じながら体を動かしたい方向けのツアー内容 		<ul style="list-style-type: none"> 【その他連携先等】 ○宿泊事業者 ○飲食事業者 ○地域の観光資源： <ul style="list-style-type: none"> ・地球岬クルーズ ○周辺地域の観光資源： <ul style="list-style-type: none"> ・洞爺湖ジオパーク ・登別温泉 	<ul style="list-style-type: none"> ・周辺地域の観光資源との連携による室蘭への誘客。 ・「撮りフェス」などのイベントに合わせた実施。

3. 各モデル地区の進捗報告 -白鳥大橋⑨-

◆ モニターツアー内容

①【札幌発着】白鳥大橋主塔登頂クルーズとアンカレイジ見学付き鉄のまち室蘭の歴史を巡るツアー

項目	内容
テーマ	室蘭の鉄
コース概要	室蘭のシンボル、白鳥大橋の主塔に登り、 普段は見られない室蘭の風景やアンカレイジ という吊橋のメインケーブルを固定させる部分を見学いただけます。また、ボルトやナット、ワッシャーなどをはんだ付けして製作する人形「 ボルタ 」の 製作体験 や、旧室蘭駅舎などを含む日本遺産「 炭鉄港 」を巡り鉄のまち室蘭の歴史を体感することができます。白鳥大橋主塔登頂前には室蘭港をクルージングで一周、海上から見る白鳥大橋は迫力満点です。
検証事項と目的	<ul style="list-style-type: none"> ・地域の観光資源（ボルタ製作体験）との連携方の確認 ・施設の受入体制などの確認（安全対策など） ・テーマに合わせたストーリー構築
行程（案）	札幌駅 == 所要120分 == みたら室蘭（昼食 所要60分） == ボルタ製作体験（所要60分） == 炭鉄港（所要60分） == 白鳥大橋登頂クルーズ + アンカレイジ見学（所要120分） == 所要120分 == 札幌駅



白鳥大橋



白鳥大橋アンカレイジ見学

3. 各モデル地区の進捗報告 -白鳥大橋⑩-

◆ モニターツアー内容

②【札幌発着】室蘭の絶景を巡る魅力発掘ツアー

項目	内容
テーマ	絶景
コース概要	クルーズ船に乗り「北海道の自然100選」で第1位を獲得した、北海道を代表する人気の観光スポット 地球岬を含む「室蘭八景」 を始め、約100メートル級の絶壁が約14キロメートルも続く海岸線を海上から楽しむことができます。また、普段は見られない東日本最大の吊橋「 白鳥大橋 」を支える 主塔からの絶景 など、室蘭の美しい風景を様々な角度からご覧いただけます。
検証事項と目的	<ul style="list-style-type: none"> ・地球岬クルーズから白鳥大橋登頂への流れ確認 ・テーマに合わせたストーリー構築
行程（案）	札幌駅 == 所要120分 == みたら室蘭（昼食 所要60分） == 地球岬クルーズ（所要90分） == 白鳥大橋主塔登頂（所要40分） == 所要120分 == 札幌駅



地球岬クルーズ



主塔からの眺望

3. 各モデル地区の進捗報告 -白鳥大橋⑪-

◆ モニターツアー内容

③【新千歳空港発着】新たな魅力を発見、室蘭を巡るカメラ旅

項目	内容
テーマ	カメラ旅（撮りフェスと連携）
コース概要	室蘭の絶景を巡るカメラ旅。カメラを片手に旧室蘭駅舎、三ツ輪商会旧石蔵周辺など室蘭の歴史を感じる街並みを散策。クルーズ船に乗り、イルカ・クジラウォッチングや海上から見る白鳥大橋を撮影することができます。また、普段は見られない東日本最大の吊橋「白鳥大橋」を支える主塔からの夜景など素晴らしい被写体候補がたくさん、二日目にはうずらの卵を使ったプリンの手作り体験も楽しめます。
検証事項と目的	<ul style="list-style-type: none"> ・宿泊事業者、飲食事業者との連携方の確認 ・地域の観光資源（室蘭街並み散策）との連携方の確認 ・白鳥大橋主塔からの夜景鑑賞時の安全対策 ・テーマに合わせたストーリーの構築 ・イベントに合わせた実施の検討
行程（案）	<p>1日目 新千歳空港 == 所要90分 == みたら室蘭（昼食 所要60分） == 室蘭の古い街並み散策（所要120分） == イルカ・クジラウォッチング（所要150分） == 夕食（所要90分） == 白鳥大橋登頂クルーズ（所要30分） == ホテル</p> <p>2日目 ホテル発 == うずらのプリン手作り体験（所要90分） == 所要90分 == 新千歳空港</p>



イルカ・クジラウォッチング



室蘭街歩き

3. 各モデル地区の進捗報告 -白鳥大橋⑫-

◆ モニターツアー内容

④【新千歳空港発着】大自然満喫ツアー

項目	内容
テーマ	自然
コース概要	地球岬を始め室蘭の大自然を満喫できるクルージングや洞爺湖ジオパークなど自然が織りなす様々な景色を体感できるツアー。初日のクルージングでは、北海道を代表する人気の観光スポット「室蘭八景」を様々な角度から楽しむことができ、室蘭のシンボル「白鳥大橋」の主塔からの絶景もご覧いただけます。二日目には北海道屈指の温泉地、登別温泉で古い歴史を持つ良質な温泉に加え、北海道ならではのグルメや地獄谷など様々な楽しみ方ができます。
検証事項と目的	<ul style="list-style-type: none"> ・宿泊事業者、飲食事業者との連携方の確認 ・周辺地域の観光資源（洞爺湖ジオパーク・登別温泉）との連携方の確認 ・テーマに合わせたストーリー構築
行程（案）	<p>1日目 新千歳空港 == 所要90分 == 洞爺湖ジオパーク（所要120分） == 昼食（所要60分） == 所要90分 == 地球岬 + 白鳥大橋登頂クルーズ（所要120分） == ホテル == 夕食（所要60分）</p> <p>2日目 ホテル == 所要60分 == 登別温泉（所要120分※地獄谷 + 温泉 + 昼食） == 所要60分 == 新千歳空港</p>



洞爺湖ジオパーク（財田・水辺の里ルート）



絵鞆半島外海岸

3. 各モデル地区の進捗報告 -白鳥大橋⑬-

◆ガイドマニュアルの作成

- ・ 白鳥大橋におけるガイドを実際に行うことを想定して、ガイドマニュアル案を作成した。
- ・ 予備知識や見学場所別での説明内容例、安全管理マニュアルなどを記載。
- ・ ガイド編では、想定されるガイド経路に沿って見学場所別での説明内容例を記載。

ガイドマニュアルの構成

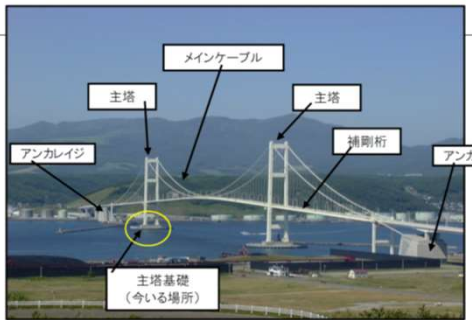
予備知識編	白鳥大橋の概要
	建設工事の概要
	維持管理の概要
	本橋の維持管理技術
ガイド編	ガイド経路
	見学場所での説明内容例と注意事項
	安全管理マニュアル
	その他
参考資料	室蘭港の誕生と軌跡
	ナイトクルーズ 船内アナウンス例
	ナイトクルーズ ガイド資料
	白鳥大橋クイズ

白鳥大橋主塔基部におけるガイド内容(抜粋)

(3)白鳥大橋

【主塔基部】

- 白鳥大橋は、昭和 60 年に着手し 13 年間をかけて、1998 年(6 月 13 日)に、日本で唯一、積雪寒冷地に建設された長大吊り橋です、今年で●●年になります。
- 室蘭港を横断し、右岸側にある国道 37 号・道央自動車道、それと左岸側にある国道 36 号、室蘭市街を結んでいます。
- 吊橋は、2本の主塔、それに渡される2組(両側)のメインケーブルが基本となる構造です。
- 2本のメインケーブルは両端にある、アンカレイジと呼ばれる巨大なコンクリートの塊に固定されています。
- 車が走る部分、補剛桁と呼びますが、それをハンガーロープでメインケーブルにぶら下げる構造です。
- 白鳥大橋は東日本最大の吊橋で橋長は 1380m です
- 吊橋の場合、橋長ではなく中央の径間長、主塔から主塔までの距離、で長さを表現しますが、白鳥大橋の中央径間は720mあり、国内では第10位の規模です。
- ちなみに、世界一の長さは、神戸にある明石海峡大橋で、中央の長さは 1991m あります。
- 橋の下は航路になっています。
- 高さは、当時の大型客船「クイーンエリザベス2世号」を想定して、54.45mで設計されましたが、今ではクルーズ船が大型化して、くぐれない船もあります。
- この後、実際に主塔を見学していただきます。



- 主塔は高さ 141m で札幌テレビ塔とほぼ同じ高さです。このツアーでは 100m ほどの高さにある、中間梁に昇ります。

【注意事項】

- ヘルメットがズレて視界を塞がれると危険なため、アゴひもをしっかり締めてください。
- 通路・階段は狭いので、両手はフリーにしてください。ものは持たないようお願いします。
- また、中間梁の下は道路で車が走っています、小さなものが落ちてでも事故になります。
- カメラ・携帯電話など落下には十分注意してください。
- 落下防止用のストラップをお持ちでない方はお貸しするのでスタッフに申し出てください。
- ●人ずつ順番にエレベーターに乗りますので係員に従ってください。それでは主塔の中には入りません。
- 足元に注意して、ゆっくりあがってください。入口が狭いので、身体をぶつけないよう、ゆっくりと入ってください。

【6F エレベータ降車時】

- エレベータを降りたら、正面に進んでください。狭いので頭、脚をぶつけないよう、ゆっくりと動いてください。特に膝は、ぶつけないよう、慎重に動かしてください。

【注意事項】



3. 各モデル地区の進捗報告 -白鳥大橋⑭-

◆第2回協議会意見要旨

- まずはガイド育成や受入体制を整備し、白鳥大橋主塔見学＋クルーズの実施体制を整えることが必要である。
- その後、地域資源との連携も含めて付加価値をつけるプランを検討すべき。室蘭には小さなコンテンツがたくさんあるので、うまくストーリーの仕立てを検討していく必要性がある。
- モニターツアーについて、内容の磨き上げが必要である。誰に販売するのか(国籍や属性)、誰が販売するのか、どのように販売するのかを検討していく必要がある。



◆今後の自走に向けた取組(案)

- ① 主塔塔頂クルーズを軸としつつ、多様な見学・活用方法を検討
- ② ガイドマニュアルの深度化
- ③ 組み合わせる地域資源の調査、検討
- ④ モニターツアー内容の検討、実施

3. 各モデル地区の進捗報告 -白鳥大橋⑮-

◆令和2年度成果を踏まえた今後の検討事項

検討① インフラ施設見学の深度化	<ul style="list-style-type: none"> 白鳥大橋におけるガイドや安全対策の強化 主塔塔頂クルーズを軸とした見学内容の深度化、多様化
検討② 地域の観光資源と連携したコンテンツ検討	<ul style="list-style-type: none"> 工場夜景をはじめとした市内観光資源との連携 登別、洞爺湖など広域での連携を見据えた地域のストーリーや周遊ツアー、コースの検討
検討③ インフラツーリズムの運営体制構築	<ul style="list-style-type: none"> 自治体、DMO、観光協会、ツアー実施事業者の役割分担検討
検討④ インフラツーリズムの実践	<ul style="list-style-type: none"> 情報発信方法の検討



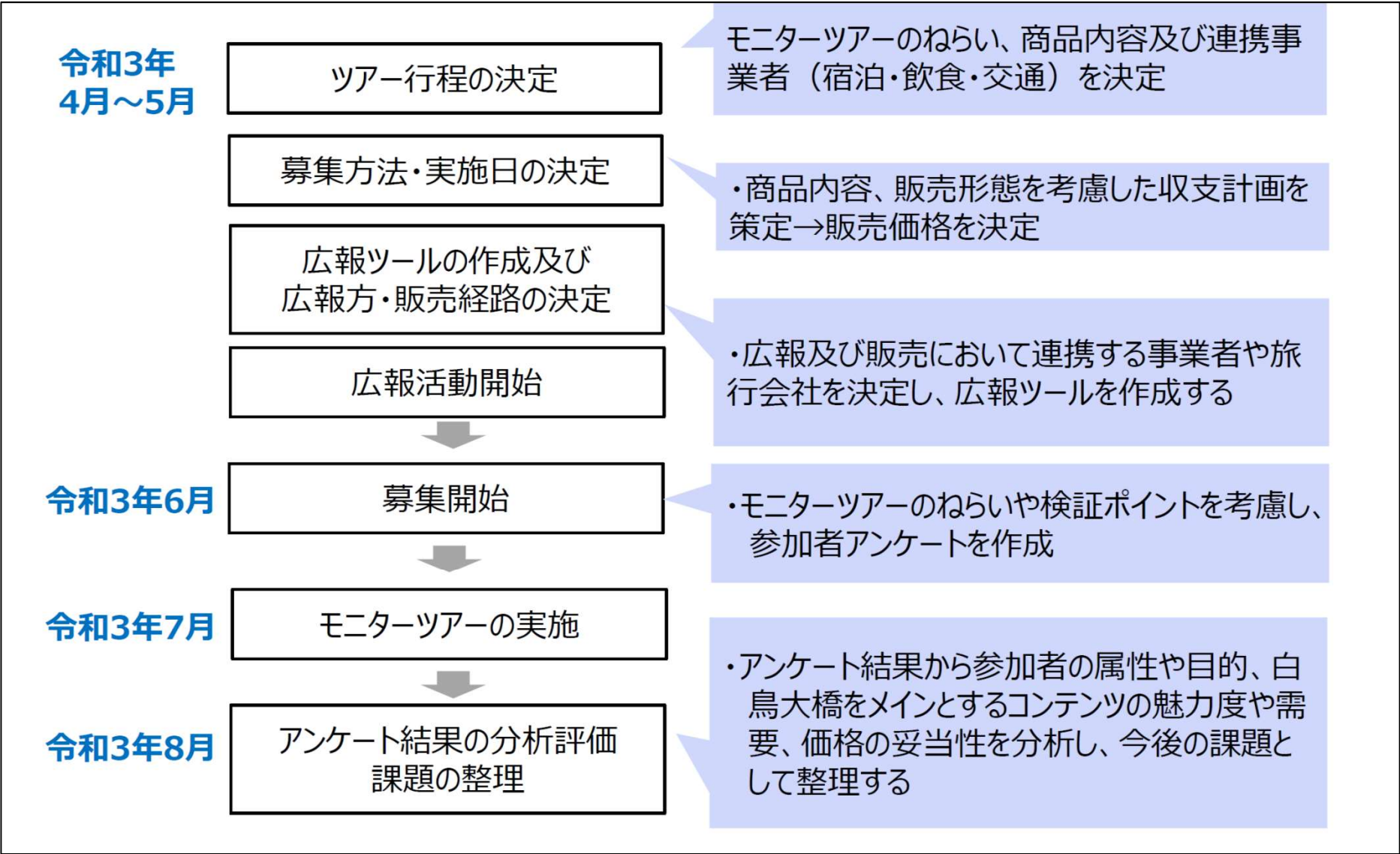
◆令和3年度の事業内容

①見学・活用方法の深度化	<ul style="list-style-type: none"> 主塔塔頂クルーズを軸としつつ、特別体験など、多様な見学・活用方法を検討する。 ガイドマニュアルの深度化を図る。
②実施体制の構築	<ul style="list-style-type: none"> ツアー実施や予約・販売の体制を構築する。
③地域資源との連携検討	<ul style="list-style-type: none"> 連携する地域資源やストーリーの検討、ターゲットに応じた組み合わせ方の検討
④モニターツアーの実施	<ul style="list-style-type: none"> 複数のターゲット層、コンセプトを想定したモニターツアーを実施する。 組み合わせるコンテンツや運営体制、事業性等について検証を行う。

3. 各モデル地区の進捗報告 -白鳥大橋⑬-

◆白鳥大橋における今後の事業実施方針

- 令和3年夏頃にモニターツアーを実施することを念頭に、ツアー行程や収支計画、広報について検討する。令和3年6月頃の募集開始を想定する。



3. 各モデル地区の進捗報告 -日下川新規放水路①-

◆ 現地協議会

<構成員>

現地協議会

日高村、日高村商工会、日高村観光協会、仁淀ブルー観光協議会、高知県仁淀川地域本部
※協議会の下部組織として、作業部会を設置

<第1回協議会>

○日 時：令和2年12月2日 15:00～16:30

○場 所：日高村社会福祉センター大ホール

○議 事：

- (1) プロジェクト全体の取り組みについて
- (2) 日下川新規放水路の取り組みについて
- (3) 意見交換
- (4) 今後のスケジュールについて

3. 各モデル地区の進捗報告 -日下川新規放水路②-

◆日下川新規放水路におけるインフラツーリズムプロジェクトの全体概要(案)

プロジェクトタイトル	インフラツーリズムによる日高村観光資源の活性化 【日下川新規放水路魅力拡大プロジェクト】
プロジェクト概要	工事段階から管理段階への移行モデルの確立 ①日下川新規放水路見学・探検プログラムの検討 ②インフラ施設と水害の関わりや歴史を結ぶストーリーの検討 ③仁淀ブルーを含む広域連携の検討
事業の柱	①日下川新規放水路のインフラツーリズムの策定 ②周辺地区を含む日高村観光資源との連携 ③ファムツアーの実施
プロジェクト目標	①日本最長級かつ高度な技術を必要とする日下川新規放水路の工事現場の探検と、これにより洪水から守られる地域での食・買い物、体験を楽しむコース(フットパス、トレッキング等)の設定。 ②放水路、調整池、樋門(水門)等のインフラ施設と水害の関わりや歴史を学べるストーリーの検討。

3. 各モデル地区の進捗報告 -日下川新規放水路③-

◆日下川新規放水路のインフラツーリズムの深度化

概要	日本最長級かつ高度な技術を必要とする日下川新規放水路の見学・探検コースを検討し、見学者誘致を目指す。	
実施項目	<ul style="list-style-type: none"> ・情報発信資料の作成 ・ボランティアガイドの育成 ・食・土産物のメニュー開発 ・限定ツアー、イベントの実施 	
ツアー設定案	①日下川新規放水路工事現場の探検	日本最長級かつ高度な技術を必要とする日下川新規放水路の工事現場の探検を実施。非日常感を味わうことができる。
	②インフラ施設の役割や作られた背景を学ぶ	放水路、調整池、樋門(水門)等のインフラ施設と水害の関わりや歴史を紹介。
	③日高村の観光資源と連携した特別プログラム	周辺の観光資源と連携し、日高村特産の「シュガートマト」を用いた食事(オムライス街道)や仁淀ブルーを全身で感じる屋形船など、食・買い物、体験を楽しむツアー(フットパス、トレッキング等)。
	④トンネルレストランツアー	夏は涼しく冬は暖かいトンネルを活用し、地元の食材を使った料理を提供するレストランでの食事体験。

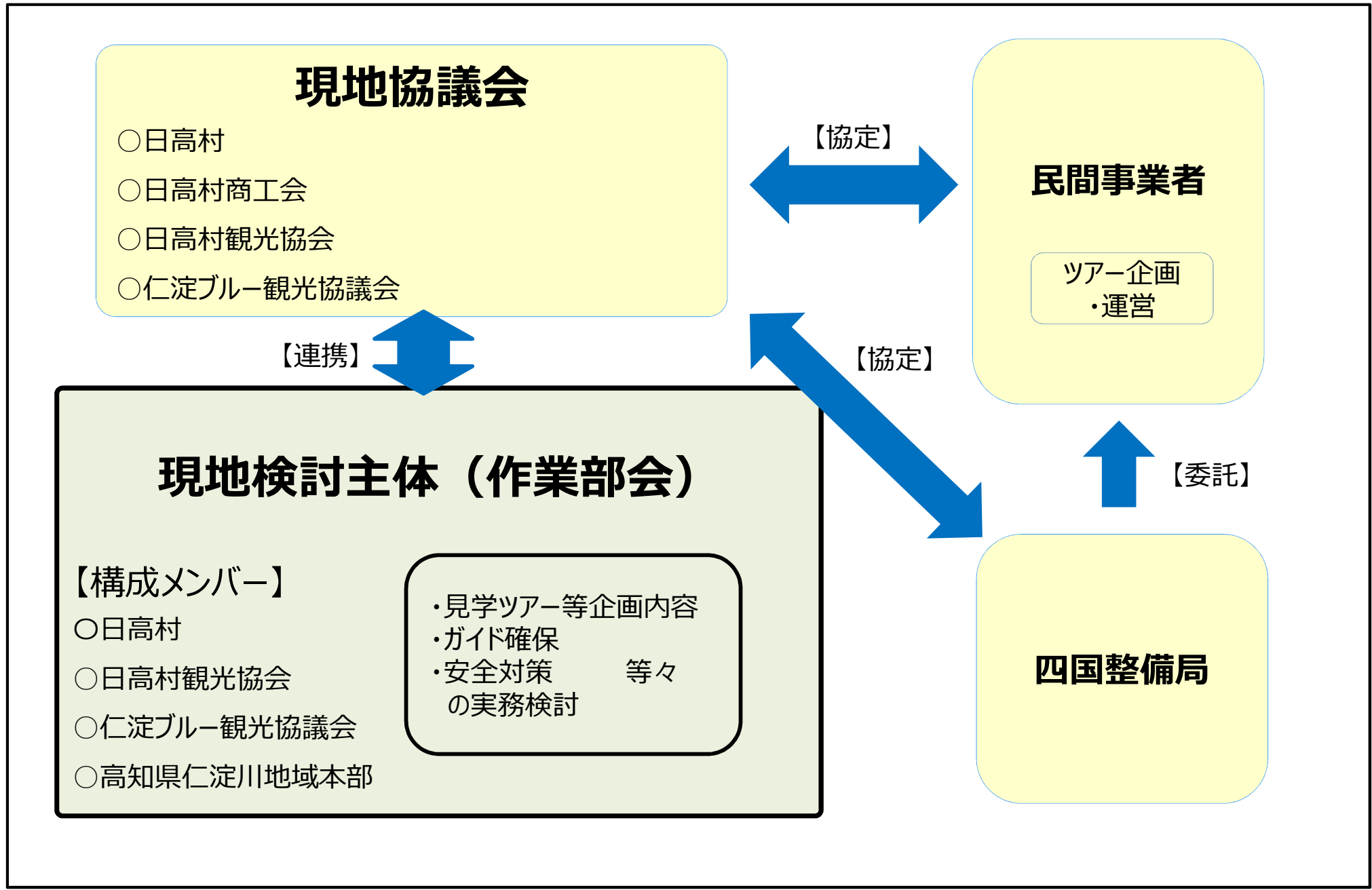
3. 各モデル地区の進捗報告 -日下川新規放水路④-

◆周辺地区の観光資源との連携

<p>課題</p>	<p>インフラ施設と水害の関わりや歴史を結ぶストーリー(周辺地域の観光資源とどう結びつけるか) 施設等受入環境の整備(安全確保) ガイド確保</p>
<p>連携方針</p>	<p>日高村を中心に周辺地域(土佐市・いの町)との連携により、魅力的なプログラムを造成し、地域への誘客を図る。</p>
<p>連携イメージ</p>	<p>The diagram illustrates the central role of '日高村 周辺観光資源' (Hiyaka Village Surrounding Tourism Resources). It is surrounded by several key elements: '日高村観光協会' (Hiyaka Village Tourism Association), '日下川放水路' (Hiyaka River New Release Channel), '日高村教育委員会' (Hiyaka Village Education Committee), '日下川調整池' (Hiyaka River Regulation Pond), '小村神社' (Koyama Shrine), '村の駅 ひだか' (Village Station Hiyaka), 'オムライス街道' (Omelette Street), and '神母樋門' (Kannomoto). Two large blue arrows labeled '連携' (Cooperation) indicate connections to external areas: one points left towards '土佐市' (Tsuetsuki City) and 'いの町' (Ino Town) etc., and another points right towards '仁淀ブルー観光協議会' (Niyodan Blue Tourism Association) and '屋形船 仁淀川' (Houseboat Niyodan River).</p>

3. 各モデル地区の進捗報告 -日下川新規放水路⑤-

◆ 運営スキーム(案)



3. 各モデル地区の進捗報告 -日下川新規放水路⑥-

◆第1回協議会意見要旨

- 放水路施設内の暗闇を活用するという珍しい場所である。仁淀川地域一体となって、交流人口を増やし、雇用が増えるのを期待している。
- 日下川新規放水路が他のインフラ施設に負けないものを一言で伝えることができるコンセプトを決めることが必要。「長い」、「暗い」空間をどう生かすか。
- 一般の方に治水施設の必要性をしっかりと説明する必要性がある。一般の方々インフラ施設を身近に感じることも事業のゴールの一つ。



◆今後の自走に向けた取組(案)

- ① 日下川新規放水路の特徴を生かしたコンテンツ検討
- ② 組み合わせる地域資源の調査、検討
- ③ ファムツアー内容の検討、実施

3. 各モデル地区の進捗報告 -日下川新規放水路⑦-

◆令和2年度成果を踏まえた今後の検討事項

検討① インフラ施設見学の深度化	<ul style="list-style-type: none"> 「暗く長い」地下の放水路トンネルの特性を生かした活用方法の検討
検討② 地域の観光資源と連携したコンテンツ検討	<ul style="list-style-type: none"> インフラ施設と水害の関わりや歴史を結ぶストーリーの検討 仁淀ブルーを含む広域連携の検討
検討③ インフラツーリズムの運営体制構築	<ul style="list-style-type: none"> 現地協議会、作業部会を中心とした運営体制の構築
検討④ インフラツーリズムの実践	<ul style="list-style-type: none"> 情報発信方法の検討



◆令和3年度の事業内容

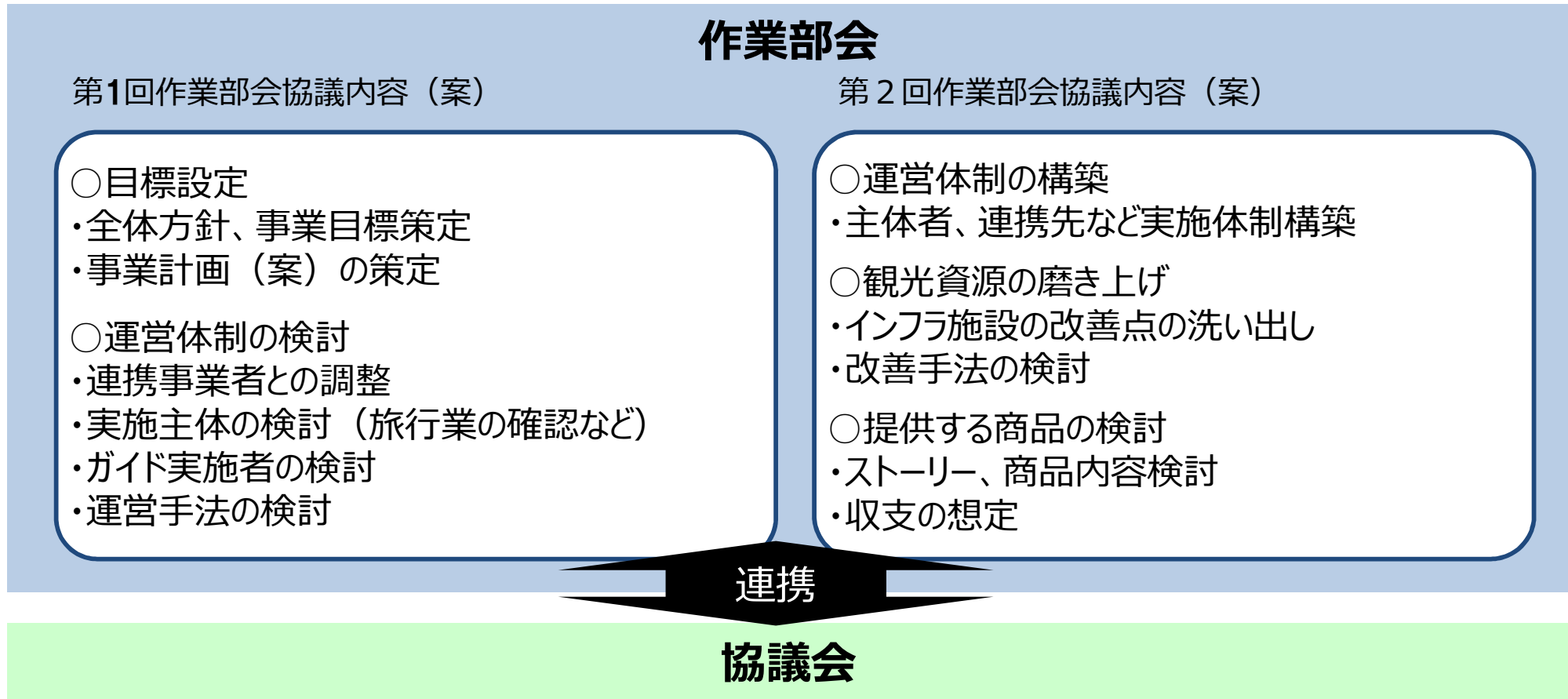
①特性を生かした見学・活用方法の深度化	<ul style="list-style-type: none"> イベント会場などとしての活用も含めて、放水路の特性を生かした活用方法を検討する。
②地域資源との連携検討	<ul style="list-style-type: none"> 連携しうる地域資源の発掘・調査と放水路を中心としたストーリーを検討する。
③ファムツアーの実施	<ul style="list-style-type: none"> 検討内容を踏まえて、本地域の魅力や課題を抽出するためのファムツアーを実施する。

3. 各モデル地区の進捗報告 -日下川新規放水路⑧-

◆日下川新規放水路における今後の事業実施方針

- 現地協議会、作業部会からなる検討体制を構築し、特性を生かした見学・活用方法の深度化や地域資源との連携検討を行う。


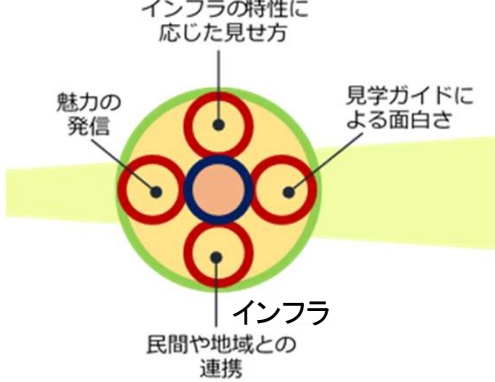
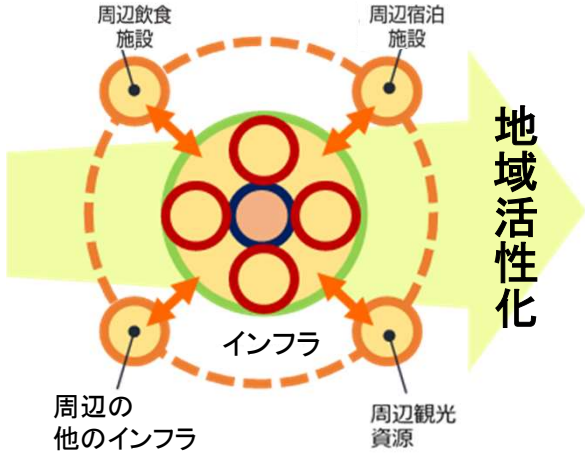
日下川新規放水路におけるインフラツーリズム検討の実施主導メンバーにおいて年間**2回**の作業部会を実施、自走化に向けた体制及び手法を検討を行う。



4. 令和2年度の成果と 今後の実施方針(案)

4. これまでの成果 —インフラツーリズム拡大のステップと 4つの検討項目の関連—

「インフラツーリズム拡大の手引き—試行版—」の「インフラツーリズム拡大のステップ」と検討項目①～④の関連を以下のとおり整理。

土木広報 ～インフラツーリズムの基礎～	土木広報＋付加価値 ～魅力ある観光資源へ～	(土木広報＋付加価値) × 周辺観光資源 ～地域と連携した観光地域づくり～					
							
土木広報としてインフラの見学会を実施している段階	インフラの見学会を磨き上げ、より広範囲から人を呼び込む段階	インフラと地域との連携により、周辺観光資源等にも立ち寄り、より一層地域活性化が図れる段階					
<p>施設管理者が実施主体</p> <p style="text-align: right;">地域と連携した組織・民間事業者等が実施主体</p>							
①インフラ施設見学の深度化	インフラ施設の特性整理	深度化の方向性の検討	具体的なターゲットとコンテンツ、付加価値の検討	見学・体験の運営体制の構築	収益化、民間委託等の展開		
②地域の観光資源と連携したコンテンツ検討	周辺資源の抽出			インフラ施設と地域の基本となるストーリーの作成	ターゲット設定・インフラ施設見学と資源の組合せ	ツアー化・モデルプログラム化	検証・ブラッシュアップ
③インフラツーリズムの運営体制構築	関係団体の抽出	協議体制の構築	関係団体の担うべき役割の整理 キャッシュフローの整理		運営体制、スキームの構築		
④インフラツーリズムの実践	<input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/>				効果的な販売・情報発信 収益の適性な配分、運用		

4. 今後の実施方針(案)

◆令和2年度の事業内容

- 5地区のモデル地区に対するフォローアップの継続(最終的には地域における自走を前提としつつ、協議、検討等についてサポートを継続)
- 新たなモデル地区の追加
- 新型コロナウイルスの影響を考慮し、現実的なスケジュールで実施内容を計画する



◆令和3年度の事業内容

- 各モデル地区における協議、検討等のサポートを継続(ファムツアー、モニターツアー未実施の地域は令和3年度に実施)
- モデルツアーを終えた地域については、ターゲット別の幅広い地域の観光資源と連携した商品の販売、実施し、自走化を目指す
- 合わせて、インバウンドへの展開や、メディア等への情報発信を検討

4. 今後の実施方針(案) — 事業全体スケジュール —

— 事業フロー(3年目) —

ツアー実施体制(内容、ガイドシナリオ、運営体制)の検討

- ・モニターツアーを踏まえて、以下を検討
 - ターゲットを踏まえたツアーの内容、ガイドシナリオ
 - 自走する際の運営体制

マニュアル・ツール等の更新

- ・ガイドマニュアルなど必要に応じて更新

インバウンドへの展開

- ・言語、食事、宿泊施設等、受入整備

メディア等での情報発信

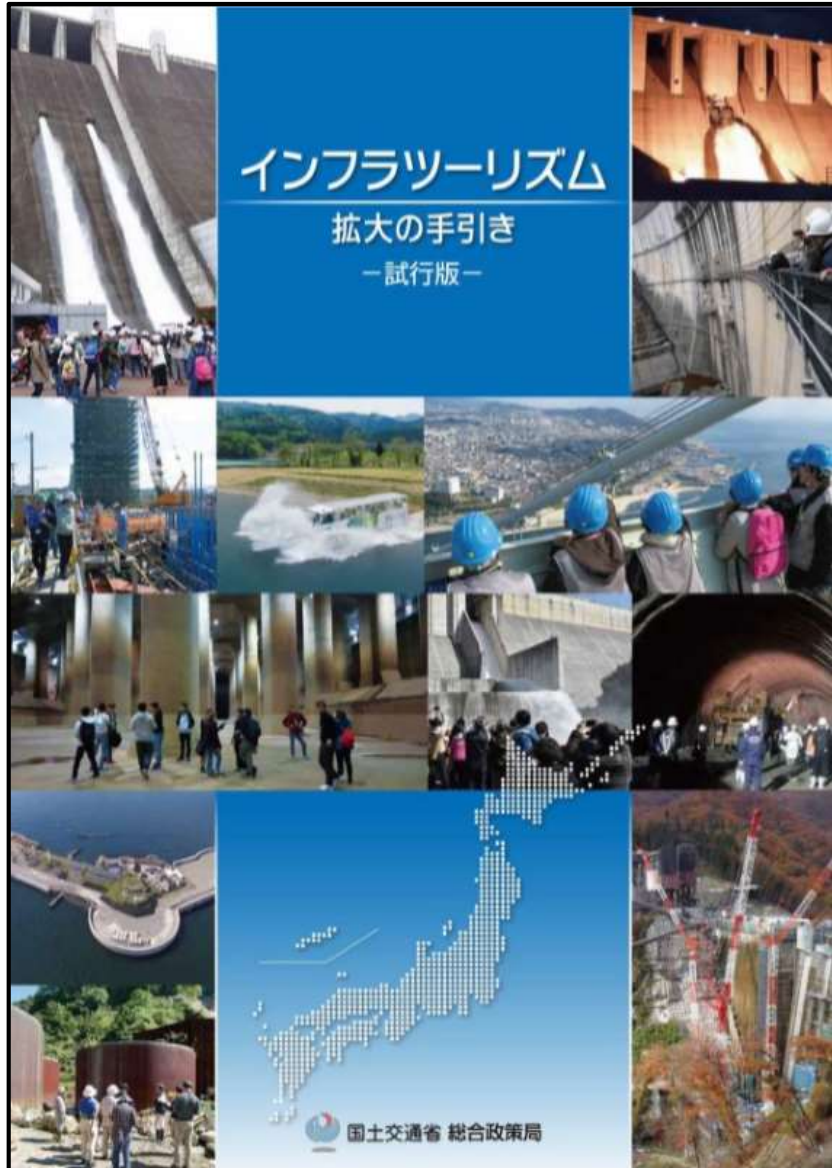
- ・メディアへの取材依頼
- ・民間や自治体と連携した情報発信
- ・ツアーのプロモーション

ツアーの本格運用開始
(自走化)

成果のとりまとめ

4. 今後の実施方針(案) ー 手引きの改定 ー

これまでのモデル地区の取組も含めて、「インフラツーリズム拡大の手引」を令和3年度内に改定予定。



現行【試行版】

- 平成31年3月、インフラツーリズム有識者懇談会の提言を受けて策定
- インフラツーリズム拡大の考え方をとりまとめ
- インフラツーリズム拡大のポイントを「勘所」(かんどころ)として整理



【改定版】

- インフラツーリズム魅力倍増プロジェクトの取組を踏まえ、令和3年度に改定予定
- インフラのタイプに応じて目指す方向や、自走化に向けた運営体制の構築などについて拡充予定

4. 今後の実施方針(案) –モデル地区7箇所の実施スケジュール–

	令和3年度																							
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月												
(全体)	手引きの改定検討					8 回 R 3 年 度 の 中 間 報 告 手 引 き 骨 子 案 の 提 示	手引きの改定検討					9 回 R 3 年 度 の 成 果 報 告 手 引 き の 改 定												
鳴子ダム	自走に向けた検討						自走に向けた検討																	
天ヶ瀬ダム													モニターツアー (予定)											
来島海峡大橋																		モニターツアー (予定)						
鶴田ダム																							モニターツアー (予定)	
ハツ場ダム	地域による自走																							
白鳥大橋							モニターツアー(予定)																	
日下川 新規放水路							ファムツアー (予定)		モニターツアー (予定)															